

令和7年度

静岡県教育研究会 英語教育研究部 第3回委員研修会

日 時 令和8年2月16日(月)午前10時10分～午前11時30分

会 場 静岡県教育会館 大会議室

司会:事務局員 前川恭佑

次第

1 開会の言葉

副部長：山脇直美 校長

2 部長講話

部 長：佐藤一朗 校長

3 報告

(1) 令和7年度 静教研事業のまとめ

事務局：井浪貴斗

(2) 静教研在り方検討委員会からの提言

事務局：井浪貴斗

(3) 令和8年度静教研事業について

事務局：井浪貴斗

4 議事

(1) 令和7年度 研究部事業のまとめ(案)

事務局：井浪貴斗

(2) 令和7年度 決算報告及び会計報告

会計主任：酒井真由美

(3) 令和8年度 研究テーマ

部 長：佐藤一朗 校長

(4) 令和8年度 事業計画(案)

事務局：井浪貴斗

※第78回静岡県中学校英語弁論大会(案)・

事務局：前川恭佑

令和9年度以降の事業縮小(案)を含む

(3) 令和8年度 研究大会の概要(案)

研究発表部長：望月香織 校長

※第76回全英連(静岡大会)の計画等を含む

部 長：佐藤一朗 校長

(4) 令和8年度 研究部成果刊行物計画(案)

編集主任：松塚早希

(5) 令和8年度 予算計画(案)

会計主任：酒井真由美

(6) 令和8年度 研究部役員

事務局：井浪貴斗

※役員の引き継ぎや報告

5 連絡

事務局：井浪貴斗

・令和8年度 第1回委員研修会の日程確認

6 その他

7 閉会の言葉

副部長：大川美紀 校長

8 東部・中部・西部地区連絡協議会

9 静東・静岡・静西地区連絡協議会

※協議会終了後、資料を2部事務局へご提出ください。

令和7年度 静岡県教育研究会

第3回研究部代表者研修会



令和8年1月29日(木) 14:00～

静岡県教育会館 4階 大会議室

次 第

1 開会のことば (野村 副会長)

2 会長あいさつ並びに教育講話(望月 副会長)

3 事務局経過報告

4 研究協議

議題1 令和7年度静教研事業のまとめ

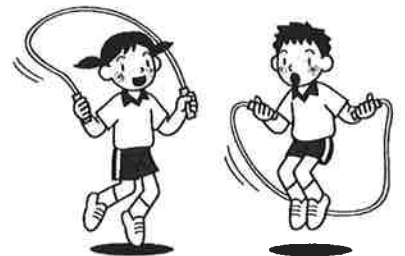
議題2 在り方検討委員会からの提言(案)について

①基本テーマについて

②研究大会について

③予算・組織・他の活動について

諸規程の改訂について



議題3 令和8年度静教研事業について

議題4 令和8年度会員募集、学校負担金、静教研参加旅費の公費負担について

議題5 今後の研究部内の諸対応について

議題6 令和8年度の研修会・会議の予定

(休 憩)

グループ協議 「提言を受けて、今後の研究部の活動に関する情報交換」

・組織及び職務遂行上の課題について(部長グループ)

・予算及び職務遂行上の課題について(事務長グループ)

5 閉会のことば (館 常任理事)

【今後の予定】

・第3回研究部委員研修会(会計監査会を含む) 2月中

・年度末提出物の〆切 3月 5日(木)

・令和8年度研究部主要役員名簿の提出 〆切 4月13日(月) 30(木)

議題 1

令和7年度 静教研事業のまとめ

I 三大事業

1 研究大会

三大事業の中心となる研究大会を、8月6日(水)7日(木)を中心に21の研究部が開催しました。今年度は、学校図書館研究部が、東海大会を、数学教育研究部が関東甲信静大会を兼ねたこともあり、昨年を上回る6、164名の参加者がありました。

「集合開催」で行った研究部は、昨年を上回る18研究部で、「久しぶりの対面での研究会で大変よかった。」「他地区の先生と情報交換できて大変有意義だった。」という声が多く寄せられました。また、「リアルタイム配信」で行った研究部は、7研究部で、「時間や旅費を気にせず参加できてよかった」という声がありました。「オンデマンド配信」を行った研究部は、11研究部で、「何度も見返すことができてよかった。」「

直接講演を聴きましたが、もう一度聞き直しました。」「自分の都合のいい時間に拝聴しました。」といった声がありました。それぞれの強みを生かした運営方法に成果を感じました。反面、配信機器の不具合や受付の不備により、参加できなかった方がいたことは反省しなければならないことでした。今年度の反省を踏まえ、次年度へ引継ぎを行うようにしていきたいと考えます。

来年度より、新基本テーマをもとに大会運営を工夫していくことが求められています。今、求められている研修観である「主体的な教師の学び」「個別最適な教師の学び」「協働的な教師の学び」への転換を踏まえ、研修への期待感や満足感が高まるようにしたいと思います。

2 調査研究活動

- | | |
|-----------------|--------------------------------|
| (1) 事務局 | 県統計グラフコンクール、小学校国語・算数定着度調査 |
| (2) 各研究部 | 上位団体の研究大会への参加、委員研修会・地区研修会での研修等 |
| (3) 国語教育研究部 | 小学校国語定着度調査(県下99.9%の公立小学校が参加) |
| (4) 書写教育研究部 | 県席書コンクール、県書き初めコンクール |
| (5) 数学教育研究部 | 小学校算数定着度調査(県下99.9%の公立小学校が参加) |
| (6) 技術・家庭科教育研究部 | 県中学生創造ものづくり教育フェア |
| (7) 英語教育研究部 | 県英語弁論大会 |
| (8) 学校図書館研究部 | 県読書感想文コンクール、県読書感想画コンクール |

3 研究成果刊行

- (1) 事務局 『研究冊子』(No.56-1)兼『静教研だより』6月号(No.134)、
『研究冊子』(No.56-2)兼『静教研だより』11月号(No.135)、
『研究冊子』(No.56-3)兼『静教研だより』1月号(No.136)を発行しました。
- (2) 各研究部 各研究部の予定に基づき、部報・研究集録等を発行し、HPに掲載しました。

II その他

1 研究助成

第2回理事教育研修会での審査により、下記会員への研究助成が承認されました。

- ・佐藤 雅之 教諭(焼津市立和田中学校:美術)
- ・渡邊 満昭 教諭(静岡市立中島小学校:特別支援)

※助成者の研究論文は、来年度の研究冊子「ときめき かかわり 未来へつなぐ」(No.57-1)に掲載します。

2 各種の研修会・会合

- | | | |
|---------------|---------------|---------------|
| ・理事教育研修会…3回 | ・会計監査会…1回 | ・評議員教育研修会…1回 |
| ・研究部代表者研修会…3回 | ・研究大会事前研修会…1回 | ・研究部委員研修会…3回 |
| ・各部代表委員研修会…1回 | ・定着度調査研修会…2回 | ・定着度調査監修会議…5回 |
| ・在り方検討委員会…3回 | | |

3 会員以外の調査研究活動への参加受け入れ(浜松市、県立特別支援学校、私立小中学校)

- ・「覚書」を結んだ浜松市立の小中学校や、準会員校となった県立特別支援学校8校及び私立小中学校10校に対して、静教研の調査研究活動への参加を受け入れました。

4 静教研在り方検討委員会からの提言

- ・令和6年度から2年かけて、次代につなぐ持続可能な静教研活動を見定め、「基本テーマ」「研究大会の割り振り・開催方法」「組織や予算」等の視点から検討し、提言をまとめました。

議題 2



静岡県教育研究会

テーマ・研究大会・組織・予算等にかかわる提言(案)

令和8年2月 在り方検討委員会

はじめに

静岡県教育研究会（以下静教研と記述）在り方検討委員会は、教育を取り巻く諸状況を踏まえて、研究の基本テーマなどについて幅広く協議し、次代につなぐ持続可能な活動を見定め、以下のように提言する。

1 基本テーマについて

- (1) 「ときめき かかわり 未来へつなぐ」を継続する。
- (2) 目指す教職員の姿を新たに明記する。
- (3) 各研究部が、このテーマを踏まえた研修の方向性や運営方法に心がけることを期待する。

2 研究大会の開催の考え方及び担当地域の割り振りについて

- (1) 8ブロックで20大会を毎年開催する。
- (2) ブロックは、静東地区は、「賀茂・東豆」「三島・田方」「駿東・沼津」「富士」、静岡地区は、「静岡」、静西地区は、「志太」「小笠・榛原」「磐田・湖西」とする。
- (3) 会員数比に基づき、静東地区8大会、静岡地区4大会、静西地区8大会を割り振ることとする。
- (4) 大会開催ブロックは、令和10年度までの実績を考慮し、令和15年度までを示した。
- (5) 全国、東海大会等を兼ねる場合は、利便性の面からも開催ブロックを変更する場合も考えられるが、運営するブロックと会場が必ずしも同じ地域でなくてもよい。
- (6) ブロック内の運営について、共同で行うか単独で行うかは各地域代表評議員の協議により、決定する。ブロック内の開催地域については、開催年の3年前の第2回代表者研修会で提案、決定する。（基準日の決定と同時に）

3 研究大会の運営方法と内容について

(1) 大会運営に望むこと

- ① 運営するブロックの地域性や研究部の特性に応じ、内容や方法を主体的に決定することが望ましい。
- ② 時間や距離の制約を受けずに、誰でも参加できるよう選択できることが望ましい。
- ③ 他地区の教職員と情報交換ができたり、参加者一人一人の課題解決に結びついたりするような「対話の場」があることが望ましい。
- ④ 大会運営にかかわる役員や発表者・提案者等に過度な負担がかからないことが望ましい。
（発表者を選出する負担、発表の準備の負担、移動の負担（旅費））

(2) 研究大会の内容（コンテンツ）について

- ① 下記のコンテンツ例を参考に、研究部や大会実行委員会として、何が大切か考え、決定する。
- ② 静教研としては「対話の場」を大切にしたい。「講演」や「実践発表」は、必ず入れなくてはならないものではないと考える。

【コンテンツ例】

- 講演(県内外の専門家、大学教授等の講演)
- 基調提案(研究部によるテーマの解説等)
- 実践発表(教育実践したものの発表)
- 研究協議(教育実践に対しての質疑、意見交換・指導助言)
- ワークショップ(ミニ講義 → 演習 → グループワークなど)
- グループディスカッション(テーマを決めた対話の場)
- 実技演習・フィールドワーク(書写、美術、音楽等の実技や社会の実地見学)
- 映像による授業公開(録画したものを視聴 ※個人情報には注意)

(3) 研究大会の開催方法について

- ①下記の方法例を参考に、研究部や大会実行委員会として、何が大切か考え、決定する。
- ②「対話の場」を大切にするとア〜ウが、「選択できることを大切にする」とカが望ましいと考えるが、最終的には研究部で決定する。

【方法例】

- ア 1つの会場に集合し、直接コンテンツに触れ、「対話の場」を設定する。
- イ ブロックごとの会場に集合し、リアルタイムまたはオンデマンド配信によりコンテンツに触れ、「対話の場」を設定する。
- ウ リアルタイム配信によりコンテンツに触れ、ブレイクアウトルームを活用し、「対話の場」を設定する。
- エ リアルタイムまたはオンデマンド配信でコンテンツに触れ、チャット機能やアンケート等を活用し、間接的に「対話の場」を設定する。
- オ ホームページへの紙上配信でコンテンツに触れ、アンケート等を活用し、間接的に「対話の場」を設定する。
- カ 上記の方法から複数選択し、ハイブリッドで行う。(アとウ アとエ アとオ など)

4 組織・予算について

(1) 組織について

- ①小規模校教育研究部は、令和10年度末で廃部とし、令和11年度に全国へき地教育連盟加盟校等を対象にした新たな委員会を新設する。
- ②研究部の委員研修会等の会合をオンラインで開催したり、研究部内の組織をスリム化したりして、負担軽減に努める。
- ③学習指導要領の改訂に伴う「教科の新設や改編」への備えをしていく。

(2) 予算について

- ①学校数や教職員数の減少による収入減の中ではあるが、学校負担金及び個人会費は、これまで通りとし、当面の間、増額はしない。
- ②各研究部に配分する予算について、算出基準の見直しをする。部員数600名未満は44万円、100名増加するごとに2万円増額し、1,300名以上は60万円とする。
- ③上位団体の研究大会の開催地域や発表者の要請などにより、予算内で活動できない場合の補助については、事務局に申請の上、理事会で承認する。

5 その他(調査研究活動・研究成果刊行)

- (1)従来の8つの活動について、今後も継続するが、できるだけ「経費節減」を意識して取り組む。また、「小学校定着度調査」については、引き続き「在り方検討委員会」で協議する。
- (2)各研究部で発行する成果刊行物については、「経費削減」「事務負担軽減」の観点から、HPを活用したデジタル版へ移行する。

令和11～15年度 夏季研究大会 開催担当地域・ブロック（案）

◎全国大会 ○東海・北陸大会、関東ブロック大会等 ※地域名の右の数字は前回開催からの年数

研究部		令和11年度			令和12年度			令和13年度			令和14年度			令和15年度		
		8/ ()・()			8/ ()・()			8/ ()・()			8/ ()・()			8/ ()・()		
1	国 語	東	駿・沼	6	静	静岡	4	西	磐・湖	7	東	富士	12	西	志太	4
2	書 写	西	志太	6	東	駿・沼	4	静	静岡	4	西	小・榛	4	東	賀・東	20
3	社 会	東	駿・沼	4	静	静岡	4	西	小・榛	7	東	富士	9	西	磐・湖	6
4	数 学	西	志太	6	東	三・田	8	西	小・榛	4	東	駿・沼	7	静	静岡	4
5	理 科	東	富士	4	静	静岡	4	西	志太	7	東	三・田	13	西	磐・湖	10
6	音 楽	西	志太	10	東	駿・沼	4	静	静岡	4	西	磐・湖	7	東	富士	9
7	美 術	東	賀・東	11	西	志太	5	東	駿・沼	4	静	○静岡	4	西	小・榛	9
8	保 体	西	磐・湖	5	東	富士	4	静	静岡	4	西	小・榛	11	東	駿・沼	4
9	技・家	静	静岡	4	西	磐・湖	4	東	富士	10	西	志太	5	東	駿・沼	9
10	英 語	西	小・榛	7	東	賀・東	11	西	志太	6	東	富士	8	静	静岡	6
11	生活総合	静	静岡	4	西	小・榛	7	東	三・田	10	西	志太	5	東	富士	9
12	道 徳	東	三・田	17	静	◎静岡	4	西	磐・湖	7	東	駿・沼	7	西	小・榛	6
13	特 活	東	三・田	12	西	志太	9	東	駿・沼	5	静	静岡	4	西	磐・湖	6
14	学校保健	静	静岡	4	西	小・榛	7	東	駿・沼	7	西	磐・湖	6	東	三・田	12
15	図書館	西	磐・湖	6	東	富士	5	西	小・榛	5	東	駿・沼	5	静	静岡	4
16	情 報	静	静岡	4	西	志太	6	東	賀・東	37	西	磐・湖	5	東	三・田	23
17	特別支援	東	駿・沼	5	西	磐・湖	5	東	富士	9	静	静岡	4	西	志太	12
18	生徒指導	東	富士	4	西	小・榛	6	東	三・田	11	静	静岡	4	西	志太	7
19	学校給食	西	磐・湖	7	東	駿・沼	7	西	志太	5	東	賀・東	11	静	静岡	4
20	事 務	西	小・榛	4	東	富士	7	静	静岡	4	西	志太	6	東	駿・沼	5

静東	賀茂・東豆	1	8	1	8	1	8	1	8	1	8
	三島・田方	2		1		2		1		2	
	駿東・沼津	3		3		3		3		3	
	富士	2		3		2		3		2	
静岡	静岡	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
静西	志太	3	8	3	8	3	8	3	8	3	8
	小笠・榛原	2		3		3		2		2	
	磐周・湖西	3		2		2		3		3	

※研究部内で、担当ブロックを変更する場合は、静東地区内、静西地区内で行うことを原則とし、3年前の第1回研究部代表者研修会兼評議員会で審議する。

ときめき かかわり 未来へつなぐ

令和8年2月 静教研在り方検討委員会

平成25年2月に基本テーマを「ときめき かかわり 未来へつなぐ」と改訂して、12年が経過した。「生きる力」の育成を根底に据え、学校での学びをイメージしたこのテーマに基づいた研究・実践は、各研究部及び会員の真摯な努力の結果、一定の成果を得ることができた。

しかし、この間、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に端を発した社会生活の変化や学習指導要領の改訂、GIGAスクールの実施など教育環境の変化もあり、子どもたちに求められている力も変化している。また、教職員の働き方改革、教職員のなり手不足など、私たち教職員の研修の在り方も変えていかなければならない状況にある。

本検討委員会では、こうした状況を踏まえつつも、これまでの基本テーマは、子どもの学びにとって普遍的な考えを示すものであり、不易（変わらない部分）と流行（変えていかなければならない部分）を明らかにし、実践していくことが大事であると考えた。さらに時代の変化に対応した教職員の学びの姿も明らかにする必要があると考えた。

そこで、基本テーマ「ときめき かかわり 未来へつなぐ」を継続することとし、それぞれの言葉に願いを込め、「目指す子どもの姿」「目指す教職員の姿」を描き、研究・実践を積み重ねていこうと考えた。

1 テーマ設定の理由

平成29年告示の学習指導要領は、子どもたちがこれからの社会をたくましく生き抜くために必要な資質・能力である「生きる力」の育成を柱に、『主体的・対話的で深い学び』を重視し、社会に開かれた教育課程の実現を目指している。また、令和3年1月26日の中教審答申では、「令和の日本型学校教育」の構築を目指し、すべての子どもの可能性を引き出すために『個別最適な学び』と『協働的な学び』の両立が重要とされ、ICT活用や少人数指導体制の整備により、学習者中心の教育を推進し、Society5.0時代に対応する資質・能力の育成を図ることが提言されている。

静岡県では、令和7年3月教育大綱で、基本理念を「未来を切り拓く人材の育成と社会を生き抜く力を育む教育の実現」とし、社会が急激に変化する予測困難な時代において、静岡県が直面する課題を解決し、持続的な発展につなげていくためには、自ら課題を的確に捉えて解決につなげる能力をもち、未来を切り拓いていくことのできる多様な人材を育てていくとしている。

静岡市では、第3期教育振興基本計画の中で、目指す子どもたちの姿を「たくましく しなやかな子どもたち」とし、「予測困難な時代」にあっても、常に夢と希望をもち、自らの豊かな未来を切り拓くことのできる子どもたちを目指していくとしている。

令和4年10月5日の中教審中間まとめでは、教員研修の在り方として「新たな教師の学びの姿」の実現が重視され、教職生涯を通じた継続的・主体的な学びを基本に、個別最適な学びと協働的な学びの両立が求められている。個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じて「主体的・対話的で深い学び」を実現することは、子どもの学びのみならず、教職員の学びにも求められる命題である。さらに、校内研修の充実やICT活用、大学等との連携強化などを通じて、理論と実践の往還を図り、教育の質向上と専門性の深化を目指すことが提言されている。

「ときめき かかわり 未来へつなぐ」の目指す子どもの姿は、私たち教職員にもあてはまる姿であり、その姿が子どもにとって重要なロールモデルとなるであろう。子どもの学びの転換とともに私たち教職員の学び（研修観）の転換を図る必要がある。

2 基本テーマに込めた願いと「目指す子どもの姿」

ときめき ～ときめきを大切にし、感動や喜びがもてる子ども～

子どもにとって学ぶことは、自分の中に知識や感動の世界が広がることである。学びの中には、時代がどのように変化したとしても、子どもの未来を決定付け、夢の実現につながる可能性を秘めている。子どもは学びの中で、まず、新たな出会いに「わくわく」する。そこには「なぜ」が生まれ、「もっと知りたい、調べてみたい、やってみたい」という意欲が自然にわき起こる。そして、学びを通して「できた、わかった」という喜びや感動を味わう。これは、学びのつながりであり、「ときめき」の連続と言っても過言ではない。また、この「ときめき」は、一人一人異なるものである。こうした一人の子どもの心の中にわき起こる純真な知的好奇心、喜びの変容と深化、次なる学びに寄せる期待を大切にしていきたい。

かかわり ～多様な「ひと・もの・こと」とかかわり、学び合って伸びる子ども～

子どもにとって学ぶことは、多様な「ひと・もの・こと」とかかわって成長していくことである。学びの中には、さまざまな事象や多様な価値観をもった人との出会いやふれあいがある。その中で、自分の思いや考えを表現し、伝え合うことで、それらを質的に共有することができ、自分のよさに気づき、高めていくことができる。つまり、多様な価値観のある集団の中で教え合い、自分の持ち味や個性を発揮し、それが周りに認められることで居場所や出番があることを感じ、自分のよさに気付く。それは、見方・考え方が広がっていくこと、伸びている自分を実感していくことでもある。このような、互いにかかわり、集団で磨き合う授業により、学ぶ喜びや感動が得られ、自己肯定感や自己有用感を覚え、思考力・判断力が高まる子どもを育てたい。

未来へつなぐ ～夢や希望をもって、学び続ける子ども～

子どもにとって学ぶことは、自分が描いた夢や希望を実現していくことである。子どもは本来「よりよく生きたい」「もっと成長したい」という願いをもっている。そして、夢や希望を実現させる大きな可能性を秘め、未来に向かって自分らしい生き方を求めて努力していく存在である。子どもが、学びを通して新たな自分を発見することは、学ぶことの価値を実感することにつながる。そして新たな自分を実感することは、次への意欲と自信、新たな目標をもつことである。それは、自分の将来への期待につながるものである。そこには一人の力ではなく環境への働きかけやかかわり、こんな自分になりたいと思う強い意志やもっと学びたいというひたむきな思いがある。このような夢や希望をもって進んで学んだり、環境とかかわったりしながら、目標に向かってひたむきに努力し、学び続ける子どもを育てたい。

3 基本テーマに込めた願いと「目指す教職員の姿」

ときめき ～ときめきを大切にし、感動や喜びがもてる教職員～

私たちは、子どもがときめいた姿に喜びを感じ、子どもとともにときめくことができる存在でありたい。そのために、さまざまな事象や子どもの表れなどから「問い」を見つけ、探究し、実践に生かすといった主体的な学びの姿を大切にしたい。急激に変化する時代の中、授業改善や教育観の問い直しをしたり、子どもたちの多様性を受容したりして、子ども一人一人の学びを最大限に引き出すことが求められている。そうした環境の変化を前向きに受け止め、学び続け、成長し続けていく教職員でありたい。それは、自身の成長を実感する「ときめき」の姿であり、子どもたちの「ときめき」につながることになる。

かかわり ～多様な「ひと・もの・こと」とかかわり、学び合って伸びる教職員～

私たちは、さまざまな事象や子どもの表れから生じた「問い」を解決するために、学校だけでなく地域の材や専門機関等と積極的にかかわっていききたい。さらに、自分一人だけではなく、世代や地域を超えた教職員や行政、大学等の職員などと実践を共有し、互いに学び合うといった協働的な学びの姿を大切にしたい。授業研究や実践報告、事例研究、ワークショップ等を通じて、教職員同士が対話し、課題を共に考え、改善策を協力して実践したり、多様な視点を取り入れることで、子どもたちの学びをより深く理解し、柔軟に対応できる力を育んでいく。こうした「かかわり」により、校内はもとより各市町や地域、ひいては県全体の教職員の資質・能力、専門性向上にもつながることになる。

未来へつなぐ ～夢や希望をもって、学び続ける教職員～

私たちは、「こんな教職員になりたい、こんな仕事をして人の役に立ちたい」と夢や希望を抱いて、それぞれの職についた。その後、経験年数を重ねる中でさまざまな課題や日常の業務を行う上での関心事が生まれてくる。そうした課題を解決したり、関心事を深めたりするために、柔軟かつ自律的に学ぶ姿を大切にしたい。研究大会や各種研修会、オンデマンド配信、成果刊行物など多様なリソースを活用し、自分のペースで探究を進めたり、年齢や経験年数を超えた教職員同士が、画一的なテーマではなく、自由な対話の中で、自らの授業や子どもとのかかわりを起点に、必要な知識やスキルを選び取って学習したりする。その中で、OJTが進み、理念や技術が継承されていく。こうした個別最適な学びを保障し、推進していくことにより、一人一人が新たな夢や希望を抱いて、子どもたちに向き合っていくことが、「未来へつなぐ」ことになる。

各研究部においては、「目指す子どもの姿」「目指す教職員の姿」をもとに、三大事業（研究大会・調査研究活動・研究成果刊行）を進める上での具体的な視点や手立て、方法を明らかにすることが大切である。また、それぞれがその特性を生かした研究テーマを設定し、日々の教育実践を積み重ねていくことや自主的に加入している会員の期待に応え、満足感が高まる研究部運営にこそかけていくことを期待する。

令和 8 年度以降の各研究部の研究部費（案）

研究部費算出法

研究部費配分額

【参考】

部員数	配分額	No.	研究部	令和 8 年度		R5	R6
				R7部員数	配分額	支出額	支出額
0～	440,000	1	国 語	1,726	600,000	556,563	525,536
100～		2	書 写	236	440,000	351,208	315,103
200～		3	社 会	1,282	580,000	469,350	466,696
300～		4	数 学	1,372	600,000	699,954	664,622
400～		5	理 科	1,072	540,000	533,602	398,965
500～		6	音 楽	762	480,000	321,782	375,272
600～	460,000	7	美 術	480	440,000	425,414	505,990
700～	480,000	8	保健体育	1,226	580,000	657,025	518,862
800～	500,000	9	技術・家庭	445	440,000	437,640	433,335
900～	520,000	10	英 語	956	520,000	431,875	576,970
1000～	540,000	11	生活・総合	676	460,000	344,682	487,182
1100～	560,000	12	道 徳	724	480,000	347,762	532,172
1200～	580,000	13	特別活動	698	460,000	498,986	589,931
1300～	600,000	14	学校保健	594	440,000	352,191	405,284
1400～	600,000	15	学校図書館	354	440,000	376,963	440,491
1500～	600,000	16	情 報	473	440,000	208,738	265,835
1600～	600,000	17	特別支援	1,587	600,000	534,802	567,241
		18	生徒指導	509	440,000	389,586	389,673
		19	学校給食	269	440,000	332,858	252,270
		20	事 務	574	440,000	540,000	540,010
		21	小規模校	414	440,000	504,084	345,641
		合 計		16,429	10,300,000	9,315,065	9,597,081

※左記の研究部費とは別に、以下の経費は、本部会計から支出する。

①上位大会を兼ねた研究大会に「全国大会等補助金」として40万円

②児童生徒が参加する調査研究活動（書写・技術家庭・英語・学校図書館）への活動費として当該研究部からの申請額分

③上位団体、関係団体等への負担金として、当該研究部からの申請額分

※上位団体の研究大会の開催地域や発表者の要請などにより、予算内で活動できない場合の補助については、事務局に申請の上、理事会で承認する。

「在り方検討委員会からの提言」へのアンケート結果（抜粋）

1 基本テーマについて、ご意見やご感想をお書きください。

【評価する】

- 提案通りで良いと思います。
- 目指す子どもの姿は目ごろよく話題になりますが、目指す教員の姿が示されているのが良いと思いました。
- 「ときめき かかわり 未来へつなぐ」と目指す教職員の姿を、関連付けて考えられると良いと思いました。
- 基本テーマの継続はいいと思います。そして、目指す子どもの姿だけでなく、目指す教職員の姿を新たに明記したのも教職員の研修観の転換を図る上でとてもいいと思います。

【検討を要する】

- 学び続ける教職員について、次世代へつなぐ、継承するとすれば、未来へつなぐというわかりやすい文言にしたらどうか。

（在り方検討委員会から）

アンケートから概ね理解を得ている。特に「目指す教職員の姿」を明らかにしたことへの評価の声をいただき、各研究部の研究や大会の在り方につなげていく必要がある。よって原案どおりの提案とする。

2 研究大会の開催の考え方及び担当地域の割り振りについて、ご意見やご感想をお書きください。

【評価する】

- 地区が合体したブロックにより、円滑に研究大会の運営や準備ができれば、良いと思います。
- 按分によるものなので、公平性という観点から妥当だと思います。ただ、ブロックにおける学校規模までは考慮されてはいないので、管理職の方が発表校の選出の際に考慮していくしかないですね。難しい問題です。その点も踏まえて考えてくださり、運営側の方々に感謝です。
- 東西に長い県なので、東・中・西で分かれる開催でよい。

【検討を要する】

- 8ブロックの変更はないですが、今後、統廃合で学校数や会員数が減少することを考えると、地区によっては開催運営や実践発表が困難と言う声もある。また、別大会や別事業の開催運営と重なるところもあり、令和11年度以降の開催地区について、少しでも負担軽減のため別大会などの情報を把握し配慮できるところは考えてほしいと言う声もあった。
- 児童生徒減で教職員数も減少している地区は配慮してあげて欲しい。
- 教科によっては教員の負担が大きくなっている。当たるたびに発表者が同じであったり、運営者であったりするため、静教研への加入を拒否する傾向に出ているのも現実である。教員の負担がなく、だれもが参加したい静教研であるために、開催方法、そして旅費の課題について考える必要はある。上位大会と調整しながら、基本、研究大会は隔年とし、研究部費の割当を旅費負担できるように配分するなどしたらどうか。

- 担当地域についてですが、四年周期で担当がまわってくると、実質、毎年のように大会の準備をしているようになります。例えば、大会を隔年開催にしたりできないでしょうか。また研究部内で担当の順を相談して変える事もできるようにお願いしたいです。
- 会員数の割合に応じて研究大会を割り振った場合、5年ごと順番が回ってくる地区もあれば、10年以上回ってこない地区も出てくる。頻繁に回ってくる地区の負担が大きくなるので、割り振り方法の見直しを強く希望する。もしくは、負担削減のため研究大会の隔年開催も検討願う。

【感想・要望等】

- △全国、東海大会を兼ねる場合は運営するブロックと会場が必ずしも同じ地域でなくてもよいとのことで、会場となる地域が属するブロックにも何等かの役割が生じてくるのかなと思いました。大会が大がかりになる場合は担当であるかどうかにかかわらず、全ブロックで何らかの役割をもち、支えることが大切だと思いました。
- △実際に現地で話を聞いたり、交流したりできると嬉しいです。
- △今年の静岡県教育研究会夏は、出張のための予算がなく、オンデマンド配信で参加した。集合開催のメリットは、他地区の先生方との情報交換ができることだと思っている。予算が削られ、集合開催ができないのは残念だと思う。

（在り方検討委員会から）

会員数による按分で公平性があるとの評価をいただいた反面、検討を要するという意見も多くいただいた。まとめると、①会員数の少ない地域への配慮 ②研究部内で割り振りの変更について ③隔年開催への要望 の3点に集約される。

- ①については、按分による割り振りをしていることや少人数の地域でも開催できる方法を提示する等でできるだけ配慮していることを説明する。
 - ②については、研究部内で変更する場合の、ルールを提示する必要がある。
 - ③については、研究大会が最も主要な活動であること、毎年会費を納めていただいていること、最新の動向を知る機会であることなどから「毎年、開催する」という方針を、粘り強く説明する。
- そこで、以下の提案を加え、原案としたい。

【提案】研究大会担当ブロックの変更について

○研究部内で、担当ブロックを変更する場合は、静東地区内、静西地区内で行うことを原則とし、3年前の第1回研究部代表者研修会兼評議員会で審議する。

3 研究大会の運営方法と内容について、ご意見やご感想をお書きください。

【評価する】

- 「対話の場」を大切に、という考えに賛同します。
- 情報交換等の対話の場があるのは、とても良いと思います。せっかく様々な地区から、先生方が集まっていますので、対話の中で得られるものもあると思います。
- 実践発表でなくても良いという考え方には賛成である。その地区の先生方は、多大な時間をかけて発表に向けて準備してくださっているが、勤務時間外の仕事が多いのではないかとと思う。対話を重視するなら、講演を聞いて対話するだけでも十分研修になると思う。
- 各地区、各研究部によって運営方法を考えることができるのはありがたいです。ただ、発表者、参加者、運営側にとって主体的な大会となるようにしたい。
- 開催が遠方地区は、「サテライト」形式での選択ができるとよい。

○遠方への旅費が確保できないならば、実践発表や講話はリアルタイム配信かオンデマンド、ブロックごとに集合して対話の場がある形でも良いと思います。

【検討を要する】

- サテライト方式は、主の開催地区だけでなく、他の地区にもお願いすることが多くなる。また各地区の把握や運営指示など新たな負担も出てくるのではないかと思います。
- 担当地区に任せ、工夫していただきたい。ただ、資質向上のためには実践発表は外せないと考える。ワークショップは少人数の方が向いており、地区開催での実施が適当と考える。夏季研究大会に出たいと思うのは、目玉となる講演や発表があるからではないか。
- 協議の時間を設けることで、参加者の満足感が高くなるのは理解できますが、静岡県内の財政状況を考えると次年度の旅費予算がかなり厳しくなることが予想されます。旅費予算のことも考えると参加はかなり厳しくなると思うので、そのことも踏まえて検討していただきたいと思います。
- 半日開催のあり方については、示されているように、『半日開催を目的としない』（原則）とし、開催日程（終日・半日等）については、地域や研究教科部の状況・特性に応じて吟味する。」としたい。

【感想・要望等】

- △対話の場よりも、講演を充実してほしい。
- △講演を地区ごと集合研修で聞き、対話の場をもつのはどうでしょうか。
- △出張旅費が厳しい中で、開催方法としてハイブリッド型（オンライン参加、オンデマンドでの参加、対面参加いずれも可）を今後も推奨していく必要を感じています。
- △大会のための授業とならないようにしたいように感じた。

（在り方検討委員会から）

「対話の場の重視」や「選択できること」や開催地の実情に合わせて、主体的に開催方法を決めることといった基本方針には、概ね評価をしていただいている。サテライト方式については、賛否があるところであるが、例としては残しつつ研究部の対応に任せたい。以上のことから、原案どおりの提案とする。

4 組織・予算について、ご意見やご感想をお書きください。

【評価する】

- 経費削減や負担軽減のための取り組み、ありがとうございます。
- 様々な物価が上がっているなか見直しはやむを得ないと思います。
- 出張したくても旅費が無いため行くことができない現実を考えると、予算や開催方法などの見直しも必要だと思います。

【検討を要する】

- 部員数に関係なく、予算の均等配分はできないか。他研究部の予算がどのように使われているか中身が見えない。
- 運営役員の旅費予算については、これまでと同様に、教科部の配当予算内で対応できれば可としてほしい。
- 規約もあるため、内部組織のスリム化には無理がある。
- 組織づくりについては、無理・無駄なく精選し、持続可能なものとしたい。

【感想・要望等】

△加入者数が年々減っている。新年度に静教研についての積極的な周知が必要。

△教員の数も少なくなっているため、増額しても致し方ない

△予算が逼迫している中、配信型やハイブリッド型と参加方法を選べるのは研究大会参加へのハードルを下げる面で有効だと思う。

（在り方検討委員会から）

検討を要する意見の中で、「研究大会の役員の旅費」についてあったが、負担にならない開催方法を提案しているので、原則通り「学校負担」としたい。また、予算については、研究部の活動により増額できることとしているため、対応可能である。

意見の中で、「加入者を増やすこと」があったが、今後の課題としていきたい。また、規約がスリム化の障害になっているとの指摘から、下記のように「研究部規程」の見直しを検討したい。

【提案】研究部規程の見直し

変更点 ①研究大会実行委員会の明記

②幹事会及び研究推進委員会の位置づけ→必要に応じて置くことができる

③編集主任の明記

以上のことから、原案どおりの提案とする。

5 その他（調査研究活動・研究成果刊行）について、ご意見やご感想をお書きください。

【評価する】

○成果刊行物については、HP 活用でいいと思う。また、カラーではなく白黒印刷でもいい。

○成果刊行物については HP を活用したデジタル化が良いと思います。

【検討を要する】

●刊行物がデジタル版のみになるとわざわざ HP まで読みに行く人は少ないのでは？

【感想・要望等】

△資料作成の負担を軽減するため、作成資料の精選や、転用しやすい様式になるよう図りたい。

△デジタル版もよいと思いますが、確実に目を通すのは自分の場合は紙媒体なので、学校回覧用に紙媒体での発行もあればありがたいです。

△調査研究活動は具体的なものが定着度調査、席書コンクール、書き初めコンクール、ものづくり教育フェア、英語弁論大会、読書感想文、読書感想画コンクール、統計グラフコンクールで、他の部が行っている内容が見えない。

（在り方検討委員会から）

研究部の成果刊行物のデジタル化については、概ね評価された。成果刊行物や調査研究活動については、今後も「静教研だより」を通じて、周知していきたい。

以上のことから、原案どおりの提案とする。

議題 2－2

諸規程の改訂について

I 研究部規程について

(1) 改訂の理由

①在り方検討委員会の提言（令和8年2月）により、研究部活動の負担軽減のために組織を

スリム化する上で、現状に即した条文に改訂する必要がある。

②研究部の活動の実態に即した条文を整える必要がある。

(2) 主たる改訂箇所

①幹事会・研究推進委員会を「必要に応じて置くことができる」に改訂する。

→ 研究部の議案書等には、幹事会は6研究部、研究推進委員会は4研究部しか位置づけられていない。この改訂により、必要かどうかを見直す機会としたいため。

②研究大会実行委員会、編集主任を明記する。

→ どちらも研究部の三大事業を扱う重職であり、実際に機能している職であるため。

③改正については、委員研修会から研究部代表者研修会とする。

→ すべての研究部が同じ規程で活動することができるようにしたいため。

(3) 備考

・本代表者研修会で承認された後、各研究部委員研修会においても承認をとる必要がある。

II 助成規程について

(1) 改訂の理由

・現状に即した条文に改訂する必要がある。

(2) 主たる改訂箇所

・申請の手続きに研究部長の副申請書の項目を削除する。

→令和4年度より、広く会員が応募しやすいように、この措置が行われていたため。

静岡県教育研究会研究部規程

(名 称)

第 1 条 研究部は、静岡県教育研究会〇〇研究部と称する。

~~(事務局)~~

~~第 2 条 研究部の事務局は、〇〇〇〇に置く。~~

(目 的)

第 3 条 研究部は、静岡県教育研究会会則第 3 条に則り、小中学校教育に関する調査研究を行い、その成果の普及を図り、本県学校教育の向上に資する。

(事 業)

第 4 条 研究部は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- 1 教育に関する研究並びに調査
- 2 研究大会、研修会、講習会の開催
- 3 研究成果の発表刊行
- 4 目的を同じくする各種の教育関係機関、教育関係団体との連携
- 5 その他、目的を達成するための必要な事項

(構 成)

第 5 条 研究部は、静岡県教育研究会会則第 5 条の規程による静岡県教育研究会会員で、この研究部に参加を希望する者によって構成する。

(機 関)

第 6 条 1 研究部に次の機関を置く。

委員研修会

- 2 研究部は、必要に応じて次の機関を置くことができる。

幹事会、研究推進委員会、研究大会実行委員会

(委員研修会)

- 第 7 条 1 委員研修会は、各地域から 2 名ずつ選出された委員によって構成する。ただし、必要に応じて会員から選出された役員を加えることができる。
- 2 委員研修会は、予算及び決算、事業計画及び事業報告、並びに研究部代表者会及び幹事会から付議された重要事項について、審議決定または承認する。

(幹事会)

第 8 条 ~~1 幹事会は、校長、教職員同数若干名をもって構成する。~~

- 2 幹事は、委員から研修会において選出する。

~~3 1 幹事会は、部の運営上必要な事項を審議処理する。~~

~~4 幹事会は、必要に応じて部長が招集する。~~

(研究推進委員会)

第 9 条 1 研究推進委員は、研究推進委員会を構成し、研究の推進に寄与する。

- 2 研究推進委員は、部員から選出し、委員研修会に諮って決める。

(研究大会実行委員会)

第 9 条 1 研究大会実行委員会は、大会の企画及び運営に寄与する。

- 2 研究大会実行委員は、部員から選出し、委員研修会に諮って決める。

(会 議)

第 10 条 1 研究部の会議は、すべて過半数の出席で成立し、出席者の過半数の賛成をもって決める。ただし、可否同数の場合は議長が決める。

- 2 研究部は、委任状を承認する。

(役 員)

第 11 条 研究部に、次の役員を置く。

部長 1 名、副部長 若干名、事務長 1 名、幹事 若干名、会計主任 1 名、編集主任 1 名、会計監査員 3 名。

(部長、副部長)

第 12 条 1 部長及び副部長は、委員研修会で選出する。

- 2 部長は、研究部を代表し、部の仕事を総括する。

- 3 部長は、会議を招集し、議事の進行を行う。

- 4 副部長は、部長を補佐し、部長事故あるときはその職務を代行する。

(事務長、会計主任、編集主任)

- 第 13 条
- 1 事務長は、研究部全般の連絡調整及び企画運営の事務を取り扱う。
 - 2 事務長は、細則第1112条による帳簿を備え、管理する。
 - 3 会計主任は、研究部の会計を取り扱う。
 - 4 編集主任は、成果刊行物の編集業務を取り扱う。

(会計監査)

- 第 14 条 会計監査員は、委員研修会で選出し、研究部の会計を監査して委員研修会に報告する。

(任期)

- 第 15 条
- 1 研究部の役員及び委員の任期は、すべて1年とする。ただし再任を妨げない。
 - 2 補欠員の任期は、すべて前任者の残任期間とする。

(経費等)

- 第 16 条 研究部の経費は、静岡県教育研究会から配分される部費をもって充てる。

(会計年度)

- 第 17 条 研究部の会計年度は、4月1日に始まり、3月31日に終わる。

(改正)

- 第 18 条 この規程の改正は、委員研修会研究部代表者会において3分の2以上の同意を得なければならない。

(付則)

- 第 19 条
- 1 この規程は、昭和41年10月12日から実施する。
 - 2 平成8年5月24日一部改正 (研究部委員会構成に但書き追加)
 - 3 平成16年6月1日一部改正 (役員の構成及び事務長、会計主任の役割明記)
 - 4 平成20年6月5日一部改正 (小中養護学校を小中特別支援学校に)
 - 5 令和8年1月29日一部改正 (研究大会実行委員会を追加、編集主任の役割明記)

静岡県教育研究会助成規程

(目的)

- 第 1 条 この規程は、静岡県教育研究会会則第20条第1項の規定により、第4条第1項に定める小中特別支援学校教育に関する研究助成事業の実施について、必要な事項を定めることを目的とする。

(助成の対象)

- 第 2 条 研究の助成は、本会の会員並びに会員で構成する団体が行う教育研究活動を対象とする。

(助成対象、及び額の決定)

- 第 3 条 研究助成及び額の決定は、助成を受けようとする者の申請及び年度の方針に基づき、理事会において決定する。

(申請の手続き)

- 第 4 条 助成を受けようとする者は、7月末日までに所定の様式により、関連の研究部長に申請し、研究部長は副申請書を添えて、8月末日までに所定の様式により会長に提出する。

(研究成果の報告)

- 第 5 条 研究助成を受けた者は、研究の成果を会長に報告するとともに、広く会員に発表する。

(付則)

- 第 6 条
- 1 この規程は、昭和41年10月12日から施行する。
 - 2 平成3年3月12日一部改正 (申請時期の変更)
 - 3 平成20年6月5日一部改正 (小中養護学校を小中特別支援学校へ)
 - 4 令和8年1月29日一部改正 (小中特別支援学校を小中学校へ・研究部長の副申請書削除)

議題 3

令和8年度 静教研事業について

議題 3－1

令和8年度 事業計画（案）について

1 基本テーマ・組織・予算等

- ・基本テーマ「ときめき かかわり 未来へつなぐ」（令和8年2月改訂）のもと、「研究大会」「調査研究活動」「研究成果刊行」の三大事業を中心に具体的な活動計画を立て、研究の充実・発展に努める。
- ・在り方検討委員会からの提言や昨今の教育を取り巻く状況等を踏まえながら、研究部活動や静教研事業の在り方を見直し、組織のスリム化や会議のオンライン化など、積極的に改善に取り組む。

2 事業の方針と事業内容

（1）研究大会

- ・令和8年8月5日（水）、6日（木）の基準日を中心に21の研究部すべてが開催する。
- ・特別支援教育研究部は、東海北陸地区大会を、英語教育研究部は、全国大会を兼ねて開催する。
- ・研究部や開催担当地区の柔軟な発想により、開催方法や内容を工夫する。

（2）調査研究活動

- ・教職員の指導力向上を目的とした調査研究活動（小学校定着度調査、各種コンクール、発表会等）を従来通りに実施する。
- ・県立特別支援学校および私立小中学校は、準会員規程に基づき、学校負担金を納め、8つの活動のすべてに児童生徒を参加させることができる。
- ・浜松市立小中学校は、静教研との覚書に基づき、調査研究活動費を納め、3つの活動（創造ものづくり教育フェア・英語弁論大会・読書感想文コンクール）に児童生徒を参加させることができる。

（3）研究成果刊行

- ・事務局は、「研究冊子」（第57号）兼「静教研だより」（6・11・1月号）を年3回発行し、すべての会員に配付する。
- ・各研究部は、部報・研究集録等の成果刊行物を発行し、広く会員へ周知するために、ホームページに掲載する。

（4）諸会合

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| ・理事教育研修会…3回 | ・会計監査会…1回 |
| ・評議員教育研修会…1回 | ・研究部代表者研修会…3回 |
| ・研究大会事前研修会…1回 | ・研究部委員研修会…3回 |
| ・各部代表委員（会計担当）研修会…1回 | ・定着度調査研修会…2回、同監修会議…5回 |
| ・在り方検討委員会…2回 | |

（5）その他

- ・研究助成 6件程度（各5万円）を募集。（個人・グループ可。静教研事務局に申請書を提出する）
- ・地域実践校研究校 5校（各2万円）を選出。（年度末に地域教育研究会長に推薦を依頼する）
- ・教育講演会 10万円を支出。（教育事業団体と共に主催）

3 会費・学校負担金

- ・会費は、一人年額2,000円（2研究部まで登録可）
- ・学校負担金は学校規模（学級数）に応じて次の3段階とする

1～ 9学級……………年額2,000円	10～19学級……………年額3,000円
20学級以上 ……………年額4,000円	※ 特別支援学級は学級数から除く

令和6～10年度 夏季研究大会の開催担当地域

令和8年1月29日(木)現在

◎全国大会 ○東海・北陸大会、関東ブロック大会等 ※地域名の右の数字は前回開催からの年数

研究部		令和6年度			令和7年度			令和8年度			令和9年度			令和10年度		
		8/7(水)・8(木)			8/6(水)・7(木)			8/5(水)・6(木)			8/4(水)・5(木)			8/2(水)・3(木)		
1	国語	東	三・田	10	静	静岡	4	東	賀・東	15	西	小・榛	9	西	志太	6
2	書写	西	磐・湖	6	東	駿・沼	6	静	静岡	4	西	小・榛	7	東	富士	7
3	社会	東	駿・沼	6	静	静岡	4	西	磐・湖	9	東	三・田	14	西	志太	8
4	数学	東	駿・沼	6	東	○富士	10	西	小・榛	7	西	磐・湖	6	静	静岡	4
5	理科	東	富士	14	静	静岡	4	東	賀・東	10	東	駿・沼	5	西	小・榛	8
6	音楽	西	磐・湖	10	東	駿・沼	5	静	静岡	4	西	小・榛	6	東	三・田	10
7	美術	西	志太	5	東	富士	9	東	駿・沼	5	静	静岡	4	西	磐・湖	6
8	保体	東	三・田	15	東	富士	8	静	静岡	4	西	志太	7	東	駿・沼	5
9	技・家	静	静岡	4	西	磐・湖	12	西	志太	8	東	賀・東	18	西	○小・榛	6
10	英語	西	志太	7	東	三・田	9	静	◎静岡	5	西	磐・湖	7	東	駿・沼	5
11	生活総合	静	静岡	4	東	賀・東	14	西	志太	8	西	磐・湖	10	東	駿・沼	6
12	道徳	東	駿・沼	6	静	静岡	4	西	小・榛	7	東	富士	7	西	志太	6
13	特活	西	小・榛	15	東	駿・沼	5	西	磐・湖	7	静	静岡	4	東	富士	6
14	学校保健	静	静岡	4	西	磐・湖	16	東	富士	7	西	志太	5	東	賀・東	20
15	図書館	東	富士	6	西	○小・榛	8	東	駿・沼	6	西	志太	5	静	静岡	4
16	情報	静	静岡	4	東	富士	6	西	磐・湖	5	東	駿・沼	5	西	小・榛	5
17	特別支援	西	磐・湖	5	東	三・田	8	西	○小・榛	6	東	賀・東	14	静	静岡	5
18	生徒指導	東	富士	7	西	志太	10	東	駿・沼	5	静	静岡	4	西	磐・湖	6
19	学校給食	西	小・榛	14	西	志太	9	東	三・田	8	東	富士	7	静	静岡	4
20	事務	西	小・榛	12	西	志太	6	静	静岡	4	東	駿・沼	6	西	磐・湖	8
21	小規模	東	賀・東	15	西	小・榛	16	西	志太	6	東	駿・沼	5	静	静岡	5

東① 1～2	賀茂・東豆	9	東	賀・東	10	東	賀・東	7	東	賀・東	9	東	賀・東	7
東② 1～2	三島・田方			三・田			三・田			三・田			三・田	
東③ 3～4	駿東・沼津			駿・沼			駿・沼			駿・沼			駿・沼	
東④ 2～3	富士			富士			富士			富士			富士	
静岡 4～5	静岡	4	静岡	静岡	4	静岡	静岡	5	静岡	静岡	3	静岡	静岡	5
西① 2～3	志太	8	西	志太	7	西	志太	9	西	志太	9	西	志太	9
西② 2～3	小笠・榛原			小・榛			小・榛			小・榛			小・榛	
西③ 2～3	磐周・湖西			磐・湖			磐・湖			磐・湖			磐・湖	

地域ローテーションの基本 ◆静岡は、4年の間を空けて、5年に1回開催。間が3年(5年間に2回開催)は作らない。 ◆静岡・静岡西は、6～8年の間を空けることが基本。やむを得ず間が5年となる場合もある。	数学教育研究部 兼:関東甲信越静岡大会 8月20日(水)に開催	英語教育研究部 兼:全国大会 11月20(金)21(土)にグランシップで開催を予定	道徳教育研究部 兼:中部地区大会 →開催しない ※令和12年度に本県で全国大会を開催するため、上位団体より、開催を見合わせる連絡があったため。	技術・家庭科教育研究部 兼:東海大会 R5全国大会を静岡(駿東・沼津)で開催した。 R10東海大会は静岡西で開催するため、富士地区の予定を、小笠・榛原地区に変更したい。
	学校図書館研究部 兼:東海地区大会 8月基準日に開催	特別支援教育研究部 兼:東海・北陸地区大会 8月6日(木)7日(金)にグランシップで開催する。静岡地区の負担を考慮し、R9とR10の担当地域を入れ替えた。		

議題3-2

令和8年度 研究大会の計画について

令和8年1月29日現在

研究部		開催方法	開催日・期間	集合会場（配信会場）	開催ブロック
1	国語	集合開催・リアルタイム配信	8/6(木) 終日	下田市民文化会館	賀茂・東豆
2	書写	集合開催・リアルタイム配信	8/5(水) 午後	静岡県教育会館すんぷら一ざ	静岡
3	社会	リアルタイム配信 集合開催（磐周のみ）	8/5(水) 午後	各学校 磐田市ながふじ学府小中一体校	磐周・湖西
4	数学	リアルタイム配信	8/5(水) 午後	各学校（学校組合立御前崎中学校）	小笠・榛原
5	理科	リアルタイム配信 集合開催（東豆のみ）	8/5(水) 午後	各学校 伊東市立門野中学校	賀茂・東豆
6	音楽	集合開催	8/6(木) 終日	静岡労政会館・静岡音楽館AOI	静岡
7	美術	集合開催	8/6(木) 午後	沼津市民文化センター	駿東・沼津
8	保健体育	集合開催	8/5(水) 終日	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ	静岡
9	技術・家庭	集合開催	8/6(木) 午後	藤枝市立青島中学校	志太
10	英語	集合開催（兼全国大会）	11/20(金)～21(土)	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ	静岡
11	生活・総合	集合開催・オンデマンド配信	8/5(水) 午後	大井川文化センターミュージコ	志太
12	道徳	オンデマンド配信	8/5(水)～14(金)	各学校（小笠教育会館他）	小笠・榛原
13	特別活動	集合開催・リアルタイム配信	8/5(水) 午後	湖西市立鷺津中学校	磐周・湖西
14	学校保健	リアルタイム配信 集合開催（富士・富士宮のみ）	8/5(水) 午後	各学校 富士教育会館	富士
15	学校図書館	リアルタイム配信	8/6(木) 午後	各学校（沼津教育会館）	駿東・沼津
16	情報	リアルタイム配信・オンデマンド配信 集合開催（磐周のみ）	8/6(木) 午前	各学校 磐周教育研究所	磐周・湖西
17	特別支援	集合開催（兼東海北陸大会）	8/6(木)～7(金)	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ	小笠・榛原
18	生徒指導	集合開催・オンデマンド配信	8/5(水) 午後	裾野市生涯学習センター	駿東・沼津
19	学校給食	オンデマンド配信 集合開催（三島・田方のみ）	8月中旬～下旬 8/6(木) 午後	各学校 韮山文化センター時代劇場	三島・田方
20	事務	集合開催・オンデマンド配信	8/7(金) 午後	静岡県男女共同参画センターあざれあ	静岡
21	小規模校	オンデマンド配信	8/6(木)～31(月)	各学校	志太

※上記は、令和8年1月29日現在の予定であり、今後変更する場合があります。

※静教研 HP に大会の資料を「紙上配信」します。（英語、特別支援は除く）直接、参加できない方については、ご活用ください。

◆令和9年度の夏季研究大会について

- ・開催基準日は8月4日（水）、5日（木）です。
- ・上位団体の大会と兼ねて行う研究部はありません。

議題 3－3

令和8年度 研究成果刊行について

1 研究成果刊行の基本方針

研究成果刊行は静教研三大事業の一つであるとともに、事業の中核をなすものである。具体的には、事務局が発行する定期刊行物と各研究部が独自に発行する刊行物をさす。

各刊行物は、会員の自主的研究の成果発表の場となっており、基本テーマ・各研究部のテーマに沿った真摯な研究実践報告が、日々の教育実践の参考資料として活用され、本県の学校教育の充実・向上に大きく貢献している。

2 事務局の編集事業

- ・研究冊子「ときめき かかわり 未来へつなぐ」兼「静教研だより」を年3回発行（6月、11月、1月）する。
- ・事務局に、編集部長を置く。事務局長が兼ねる。

3 研究部の編集事業

- ・静教研三大事業の一つであり、どの研究部も何らかの形で研究成果の刊行を行う。
- ・各研究部の方針に沿った刊行物の編集・発行の作業を進める。
- ・広く会員へ周知することや経費節減、負担軽減の観点から、ホームページに掲載する。
- ・研究部に、編集主任を置く。事務長が兼ねることが望ましい。

4 編集主任の役割（1）事務局が発行する「ときめき かかわり 未来へつなぐ」への対応

「研究冊子」の執筆者への原稿依頼（6月）～ 提出（10月）

①執筆者の確認

令和8年度の「ときめき かかわり 未来へつなぐ」（1月号）の「研究部の追究」に掲載する実践報告の執筆者を確認する。

②執筆者への原稿依頼

以下の物を執筆者にメールで送付して、執筆を依頼する。

- ア、依頼文書
- イ、原稿の形式（ワード版）
- ウ、昨年度の研究冊子の原稿

③編集作業

執筆者から原稿を受け取った後は、注意して推敲する。

- ア、文章は常態で統一する。（…だ。…である。）
- イ、表記を統一する。例えば「分かる・わかる」や「目指す・めざす」など、どちらかに統一する。
- ウ、図表や授業案などの資料は、文字や判読できるよう、大きさに配慮する。
- エ、子どもの顔がはっきり写っている写真を掲載する場合は、本人並びに保護者に許諾を得る。また、写真・資料に名前が記載されている場合は加工して消す。
- オ、新聞や雑誌・書籍等の記事やデータ、画像、キャラクターなどの無断のコピー・転載は、著作権法に触れる場合が多いので注意する。
- カ、できあがった原稿は、研究部長の目を通してから事務局に提出する。

④経費について

- ・執筆者への執筆料は支払わない（どの研究部も共通）。
- ・執筆に必要な書籍を購入した場合は、5千円を上限に実費を支払う。（書店の領収書が必要）

⑤原稿の提出

- ア、提出物 ワードの原稿 ・ 資料で使った写真データ等
イ、提出先 静岡県教育研究会事務局 メールにて
E-mail seikyoken@iris.ocn.ne.jp

ウ、提出期日 10月15日(木) 〆切

※提出は、編集主任からでも執筆者からでも構わない。

5 編集主任の役割 (2) 研究部独自の成果刊行物への対応

成果刊行計画の提案（５月）～ 原稿取りまとめ・作成 ～ 提出（１月）

①発行にあたっての留意事項

- ア、研究成果の編集方針や内容を第1回委員研修会で提案する。（様式9）
- イ、編集主任は、研究部長と十分に連絡を取って編集作業を進める。
- ウ、刊行物には「静岡県教育研究会〇〇研究部」と明記する。刊行物は、研究部独自の研究、調査等の記録を掲載することを原則とするが、共催事業や委託研究の場合でも研究部名を明記する。
- エ、刊行物は、デジタル版とし、静教研HPに掲載し、全会員に周知する。
- オ、刊行物は事務局保管分（監査資料）として、静教研事務局で1部保管する。

②編集に係る経費

- ア、以下の項目に従い、令和８年度予算案に計上する。
- | | |
|-------|---|
| 旅費 | 編集会議や編集の仕事にかかわる移動費用 |
| 借料・損料 | 編集のための会場借用料 |
| 資料費 | 執筆に必要な書籍を購入した場合は、５千円を上限に実費を支払う。
<u>（書店の領収書が必要）※執筆者への執筆料は支払わない。</u> |
| 通信運搬費 | 編集活動のための通信費・発送費 |
| 賃金 | 会員以外の人に作業を依頼した場合の謝礼 |
| 需用費 | 消耗品代等 |
- イ、令和８年度より、デジタル版とするため、印刷費は計上しない。

6 その他

詳細については、6月2日（火）午後に開催する「研究大会事前説明会」で説明する。

議題 3－4

令和 8 年度 研究部事業計画の作成にあたって

1. 事業計画の基本的な押さえ

- (1) 基本テーマ「ときめき かかわり 未来へつなぐ」（令和 8 年 2 月改訂）に基づいた研究の推進を図る。
- (2) 「研究大会」「調査研究活動」「研究成果刊行」の三大事業を研究部事業の柱とし、学校運営や地域の研究活動に密着した活動計画を立てる。
- (3) 研究部が取り組んでいる研究内容の浸透や部員相互の交流を重視して、会員の所属意識や満足感、研究意識が高まるよう、事業計画を練る。

2. 研究大会について

- (1) 研究大会は、三大事業の柱であり、教職員の資質向上に大きな役割を果たしている。ここ数年部員から「参加方法が選択できること」や「協議や情報交換の場があること」への期待の聲が高まっている。そうした期待に応えられるよう、講演会や実践発表・協議等の内容の充実に力を入れる。
- (2) 研究部の特性や規模、開催地域の地理的環境や規模などに応じ、開催方法を工夫する。働き方改革の視点から、運営方法も積極的に見直していく。
- (3) 台風や地震などの自然災害にも柔軟に対応できるよう、万一の場合を想定しておく。
- (4) リアルタイム配信、オンデマンド配信で行う場合は、各地区や各学校の機器整備の状況を把握し、準備を進める。静教研ホームページ等で連絡や配信の機能を有効に活用する。

3 調査研究活動について

- (1) 本研究会の「調査研究活動」に該当する次の事業について、一層の充実・発展を図る。
 - ① 小学校定着度調査や研究部主催のコンクール・発表会など、児童生徒が参加する活動。
 - ② 夏季研究大会や独自課題に関する地区別の研究集会。
 - ③ 研究部としての研究活動に必要な調査や情報等の収集するための講演。
 - ④ 上位団体・関係団体の主催する研究大会や研修会への参加。
- (2) 「浜松市の児童生徒の学びを保障するための覚書」に基づき、浜松市教研は、静教研が必要とする運営役員や審査員等の役員を派遣することになっている。該当する 3 研究部は浜松市の教員の参加計画を作成し、相手の代表校長に開催案内（役員派遣依頼）を送付する。

4 研究成果刊行について

- (1) 部報や研究集録等、研究活動の成果（事業報告も含む）を部員に届け、部員の資質向上や今後の実践等に役立つものにしていく。
- (2) 研究成果の刊行は、静教研の三大事業の一つであるため、研究部独自の判断による刊行・掲載の中止は認められない。
- (3) 「研究実践を文章にまとめ、発信すること自体が研修」という視点に立ち、研究成果の刊行を若手部員の育成の場として積極的に活用する。なお、執筆者の過度な負担にならないよう、執筆者へのフォローする担当者を明確にするなど、配慮する。

議題 3－5 令和 8 年度 研究部予算の立案、経費の支出にあたって

1. 研究部予算の立案について

- (1) 本年度事業の成果・課題に基づいて、予算を編成する。
- (2) 三大事業の中心である研究大会については優先的に予算を配分する。次年度の大会実行委員長等からの要望を反映させる。
- (3) 上位団体の研究大会の開催場所や発表者の有無による派遣人数を考慮した予算を配分する。
- (4) 科目間の予算流用は「30%以内」を原則としている。上記の内容を踏まえ、より具体的な予算案を作成する。

2. 研究大会 (A)

(1) 講師謝金及び旅費

- ・ 講師謝金を県外講師は 8 万円以内、県内講師は 5 万円以内（いずれも税別）とする。
- ・ 交通費は実費を支払う。（謝礼分を上乗せして支払うと、報酬として課税対象になる。）
- ・ 宿泊費については、想定していない。無理のない計画を立てる。

(2) 会員以外の助言者への謝金

- ・ 会員以外の助言者の謝金は 1 万円以内（税別）とする。交通費は別途で実費を支払う。
- ・ 指導主事には謝金を支払わない。ただし、2 千円を上限に手土産の用意は可とする。（その場合は購入した店舗の領収書が必要）

(3) 大会主要役員の旅費

- ・ 令和 4 年度から暫定的に行っていた「大会運営に関わる主要役員の旅費を研究部費から支出してもよい」という措置については、令和 8 年度からは行わないこととする。但し、令和 10 年度までは移行期間とする。

(4) 会場借料

- ・ 会場借料とは、会場費及び機器、空調使用料をすべて含める。（会場に支払う金額）
- ・ 学校を会場とする場合は、計上しない。

(5) 配信業者損料

- ・ リアルタイム及びオンデマンド配信にかかる費用を計上する。（配信業者に支払う金額）

(6) 資料代

- ・ 「資料代」「原稿作成費」等の名前に変えての発表者・助言者に対する支払いは行わない。
- ・ 発表や助言に必要な書籍等を購入した場合は、「資料代」として 5 千円を上限に実費を支払う。（その場合は書店等の領収書が必要）

(7) 通信運搬費

- ・ 研究大会に関わる郵送料（宅配便を含む）及び振込手数料

(8) 需要費

- ・ 昼食の用意の対象は以下の来賓・講師・助言者で、一人 1,000 円程度とする。
来賓…開催地域の教育長、講師…講演会の講師・助手 ※昼食が必要な場合のみ
助言者…会員・会員外を問わず分科会の助言者全員
- ・ 研究大会に関わる事務用品代や通帳（大会）手数料、両替手数料

3. 調査研究活動 (B)

- ① 小学校定着度調査や研究部主催のコンクール等、児童生徒が参加する活動。
- ② 夏季研究大会や独自課題に関する地区別の研究集会。
- ③ 研究部としての研究活動に必要な調査や情報等の収集するための講演。
- ④ 上位団体・関係団体の主催する研究大会や研修会への参加。

- (1) 上記①児童・生徒が参加するコンクール・審査会・定着度調査等の事業に係る費用
- ・研究部費からは支出しない。
 - ・申請書（様式3）を提出し、「調査研究活動費」として本部会計より支給する。支給された研究部は、年度末に決算報告（様式7）を行う。
- (2) 上記②～④に係る費用（地区大会・委員研修会の講演・上位団体の研究大会参加等）
- ・研究部費から支出する。
 - ・上位団体が主催する大会等へ参加する場合は、旅費や参加費は研究部費から支出してもよいが研究部予算に支障の生じないよう、十分に検討する。当該研究部の地域校長代表が、参加予定者の所属校の校長に事前に了解を取ってから、文書で正式に参加を依頼する。その際、旅費の支出元の確認を忘れないこと。

4. 研究成果刊行（C）

- (1) 静教研事務局が発行する「研究冊子 兼 静教研だより」
- ・執筆者への執筆料は支払わない。ただし、執筆の資料となる書籍等を購入した場合は、5千円を上限に実費を支払う。（書店等の領収書が必要）
- (2) 研究部が発行する「実践集録」等の成果刊行物
- ・令和8年度より印刷製本したものを会員へ配付しないため、これまでかかっていた印刷費や通信費を予算に計上しない。
 - ・執筆者への対応は(1)と同じ。

5. 研究部内の会議費等（F）

- (1) 年間3回行われる委員研究会の会場費や会計担当者の旅費など、研究部で行う会議にかかる費用を計上する。
- (2) A B Cに配分し切れなかった分を予備的にFに配分しておく。

6. その他

- (1) 各研究部が納める上位団体への負担金は、静教研事務局で納入するため、各研究部へ請求があったものは、静教研事務局へ送付する。研究大会の参加費については、B 調査研究活動2 資料費で支出する。
- (2) 配分された予算では、足りないと判断した場合については、「研究部予算増額要望書」（様式4）へ要望する金額及び科目、その理由を記入し、3月5日（木）までに静教研事務局へ提出する。4月の第1回理事教育研究会で承認を受ける。

議題 5－3

研究部内の引継ぎに関する確認事項

1 次年度（令8）の研究部役員の選出・決定について

- ・令和8年度の研究部役員（部長、副部長、事務長、会計主任等）を、「第3回研究部委員研修会」で内定しておく。氏名や学校名がわからない場合でも、地域名は記入しておく。
 - 別冊の様式8「研究部役員一覧(案)」を3月5日(木)までに事務局に提出。
- ・正式には令和8年度の「第1回研究部委員研修会」（5月中に実施）で承認を受ける。
 - 「研究部役員一覧(案)」の(案)を消して、新年度の5月に各研究部で行う「第1回研究部委員研修会」の終了後、速やかに事務局に提出する。

2 研究部の地域代表委員の選出について

- ・県下13地域より選出される地域代表委員（校長・教職員）には、できるだけ継続していただくことが望ましいが、交代する場合は、次年度の研究部の役割を地域の教育研究会長に伝えた上で人選をしていただく。

3 次年度（令8）の「第1回 研究部委員研修会」の準備について

- ・5月中に第1回の研究部委員研修会を開催する。
- ・3月中に日程を決定し、令和7年度事務長が開催通知を作成後、各地域の代表委員（校長・教職員）及び静教研事務局に送付する。令和7年度の地域代表委員（校長・教職員）は、令和8年度の地域代表委員（校長・教職員）に転送する。
- ・研究部長・事務長等の役員が交代する研究部は、引継ぎの打合せ等を行う。特に様式1～9については、データの受け渡しを確実に行う。
- ・各地域からいただいた代表委員名簿を、4月中旬に静教研事務局から事務長宛にメールで送付するので、それを参考に研究部の名簿を作成する。住所や電話・FAX番号等、一覧する必要がないものは割愛する。また、メールアドレス等が必要な場合は、第1回委員研修会で各委員から聞くなどするとよい。

4 令和8年度研究部長事務長Zoom説明会 について

- ・新任の研究部長・事務長を対象に、静教研の活動や部長・事務長の役割、及び第1回研究部委員研修会の持ち方等を事務局より説明する。
- ・日時は、4月21日（火）22日（水）23日（木）の13:30～14:30または、15:30～16:30（3日とも）のどれかを選んで参加する。

令和8年度の研究部主要役員について

研究部の主要役員（氏名・現在校）を、以下の期日に報告してください
候補者が決まっていない場合は「地域名」を、記入して提出してください。
※様式8でも可

（研究部名） _____ 研究部

役 職	氏 名	所 属 校 または 地域名
部 長		
事 務 長		
会計主任		

大会実行委員長		
大会事務局長		
大会会計担当		

☐ 報告日 第1回 3月5日 第2回 4月13日 第3回 4月30日

※様式8でも可

☐ 今後の予定

4月14日 部長・事務長に「研究部立ち上げ資料」送付

4月27日 部長・事務長・実行委員長・事務局長に、「開催通知」送付

5月 1日 会計主任・大会会計に、「開催通知」送付

実行委員長・事務局長に、「大会準備資料」送付

6月 2日 評議員教育研修会兼第1回研究部代表者研修会（10:00～）

研究大会事前研修会（13:30～）

6月 5日 研究部代表者（会計担当）研修会（14:00～）

議題 5－4

令和 8 年度 第 1 回研究部委員研修会について

1 開催期間及び方法

- (1) 5 月中に行う
- (2) 方法は、集合開催でも Zoom 開催でも可。委任状については省略できる。
- (3) 開催通知を、事務局までメールにて送付する。

2 内容について（次第案）

- (1) 令和 8 年度 部長・事務長の承認
- (2) 部長講話
- (3) 令和 7 年度第 3 回研究部代表者研修会の報告 (事務長)
 - ①令和 7 年度静教研事業のまとめ
 - ②在り方検討委員会からの報告
 - ③令和 8 年度静教研事業について
- (4) 議事
 - ①令和 8 年度研究部役員の選出 (様式 8)
 - ②令和 7 年度研究部事業のまとめ (様式 1)
 - ③令和 7 年度決算報告 (様式 2) (様式 3 ※必要な部のみ)
 - ④令和 8 年度事業計画案 (様式 5)
 - ⑤令和 8 年度研究大会の概要 (大会案内)
 - ⑥令和 8 年度成果刊行計画 (様式 9)
 - ⑦令和 8 年度予算計画案 (様式 6) (様式 7 ※必要な部のみ)
- (5) 連絡事項
 - ①第 2 回委員研修会の日程確認 (事務長)

※調査研究活動等、各研究部で独自の取組がある場合は、追加する。

3 資料として用意するもの

- (1) 令和 7 年度第 3 回代表者研修会報告 (静教研事務局で P D F を用意する)
- (2) 様式 1 ～ 9
- (3) 令和 8 年度研究大会の大会案内
- (4) 令和 8 年度研究部組織を決める上での役員内規等

4 その他

- ・研究部状況に応じて、会計担当者が参加してもよい。会計担当者が、13 地域の校長代表及び教職員代表以外の場合、会計担当者の所属長の希望により、旅費を研究部費より支出しても構わない。その際、F 研究部内の会議費等の支出にて処理をする。

静岡県教育研究会研究部規程

(名 称)

第 1 条 研究部は、静岡県教育研究会〇〇研究部と称する。

(事務局)

第 2 条 研究部の事務局は、〇〇〇〇に置く。

(目 的)

第 3 条 研究部は、静岡県教育研究会会則第3条に則り、小中学校教育に関する調査研究を行い、その成果の普及を図り、本県学校教育の向上に資する。

(事 業)

第 4 条 研究部は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- 1 教育に関する研究並びに調査
- 2 研究大会、研修会、講習会の開催
- 3 研究成果の刊行
- 4 目的を同じくする各種の教育関係機関、教育関係団体との連携
- 5 その他、目的を達成するための必要な事項

(構 成)

第 5 条 研究部は、静岡県教育研究会会則第5条の規程による静岡県教育研究会会員で、この研究部に参加を希望する者によって構成する。

(機 関)

- 第 6 条
- 1 研究部に次の機関を置く。
委員研修会
 - 2 研究部は、必要に応じて次の機関を置くことができる。
幹事会、研究推進委員会、研究大会実行委員会

(委員研修会)

- 第 7 条
- 1 委員研修会は、各地域から2名ずつ選出された委員によって構成する。ただし、必要に応じて会員から選出された役員を加えることができる。
 - 2 委員研修会は、予算及び決算、事業計画及び事業報告、並びに研究部代表者会及び幹事会から付議された重要事項について、審議決定または承認する。

(幹事会)

- 第 8 条
- 1 幹事会は、部の運営上必要な事項を審議処理する。
 - 2 幹事は、部員から選出し、委員研修会に諮って決める。

(研究推進委員会)

- 第 9 条
- 1 研究推進委員会は、研究の推進に寄与する。
 - 2 研究推進委員は、部員から選出し、委員研修会に諮って決める。

(研究大会実行委員会)

- 第 10 条
- 1 研究大会実行委員会は、大会の企画及び運営に寄与する。
 - 2 研究大会実行委員は、部員から選出し、委員研修会に諮って決める。

(会 議)

- 第 11 条
- 1 研究部の会議は、すべて過半数の出席で成立し、出席者の過半数の賛成をもって決める。ただし、可否同数の場合は議長が決める。
 - 2 研究部は、委任状を承認する。

(役 員)

- 第 12 条 研究部に、次の役員を置く。
部長1名、副部長若干名、事務長1名、会計主任1名、編集主任1名、会計監査員3名。

(部長、副部長)

- 第 13 条
- 1 部長及び副部長は、委員研修会で選出する。
 - 2 部長は、研究部を代表し、部の仕事を総括する。
 - 3 部長は、会議を招集し、議事の進行を行う。

- 4 副部長は、部長を補佐し、部長事故あるときはその職務を代行する。
- (事務長、会計主任、編集主任)
- 第 14 条 1 事務長は、研究部全般の連絡調整及び企画運営の事務を取り扱う。
2 事務長は、細則第 12 条による帳簿を備え、管理する。
3 会計主任は、研究部の会計を取り扱う。
4 編集主任は、成果刊行物の編集業務を取り扱う。
- (会計監査)
- 第 15 条 会計監査員は、委員研修会で選出し、研究部の会計を監査して委員研修会に報告する。
- (任 期)
- 第 16 条 1 研究部の役員及び委員の任期は、すべて 1 年とする。ただし再任を妨げない。
2 補欠員の任期は、すべて前任者の残任期間とする。
- (経 費 等)
- 第 17 条 研究部の経費は、静岡県教育研究会から配分される部費をもって充てる。
- (会計年度)
- 第 18 条 研究部の会計年度は、4 月 1 日に始まり、3 月 31 日に終わる。
- (改 正)
- 第 19 条 この規程の改正は、研究部代表者会において 3 分の 2 以上の同意を得なければならない。
- (付 則)
- 第 20 条 1 この規程は、昭和 41 年 10 月 12 日から実施する。
2 平成 8 年 5 月 24 日一部改正 (研究部委員会構成に但書き追加)
3 平成 16 年 6 月 1 日一部改正 (役員の構成及び事務長、会計主任の役割明記)
4 平成 20 年 6 月 5 日一部改正 (小中養護学校を小中特別支援学校に)
5 令和 8 年 1 月 29 日一部改正 (研究大会実行委員会を追加、編集主任の役割明記)

令和7年度 英語教育 研究部 事業報告書(案)

静教研三大事業

研究大会	開催方法	開催地区集合開催・リアルタイム配信・オンデマンド配信				
	日 時	令和7年 8月 6日(水) 10:00 ~ 11:55				
	会 場	韮山文化センター				
	参加者数	321(配信 247、集合 74)	分科会数	分科会なし	実践発表者数	実践発表なし
	内 容	【静岡県教育研究会英語教育研究部夏季研究大会】 ○研究主題 「豊かなコミュニケーションを図る資質・能力の育成」～小中高の学びをつなぐ～ ○記念講演 演題 「小中高の学びをつなぐアセスメント・サイクルに向けて —Appreciation と Adaptation— 講師 亘理 陽一 氏(中京大学 国際学部 教授)				
調査研究活動	事業名	実施内容(実施日・会場・内容等)				参加者・人数等
	・東部地区英語弁論大会 ・中部地区英語弁論大会 ・西部地区英語弁論大会 ・第77回静岡県中学校英語弁論大会	9月18日(水) 沼津教育会館 9月17日(火) 志太教育会館 9月18日(水) あいホール 10月3日(金) 静岡県男女共同参画センターあざれあ 東中西の3地区より各6名、計18名の代表生徒が参加をし、参集型で行った。上位3名が高円宮杯全国中学校英語弁論大会に出場した。				19名 25名 22名 18名
研究成果刊行	刊行物名	内 容				刊行部数・頒布先・方法等
	・英語部だより ・英語弁論大会原稿集	・夏季研究大会 ・活動報告 ・県外研究大会報告 等 ・県大会出場生徒の原稿 ・県大会の結果				・静教研 HP に掲載 ・静教研 HP に掲載

本年度の成果と課題

<p>○夏季研究大会をライブ配信・オンデマンド配信・参集型の3つの形態をとったことで、多くの教員が参加でき、地区発表を通して研修を深めることができた。大会運営上も、ハイブリッド型にしたことで、働き方改革につながった。また、教員の旅費の観点でも、開催方法には好評価であった。</p> <p>○英語弁論大会の全国大会では、静岡県代表生徒3名のうち、2名が決勝大会に進み、さらに1名が全国4位になる大活躍であった。県大会の運営では、昨年度行っていたオンラインによる事前打ち合わせをなくしたが、事前に詳細の資料を配布したことで、当日の運営はスムーズに行えた。</p> <p>○刊行物により、本年度の成果を会員と共有することができた。また、データ化して静教研 HP に掲載することで、予算軽減や働き方改革につながった。</p> <p>▲配信では「音割れ」や「音量」などの、ICT に必ず出てくる問題が見られた。また、肖像権や著作権の問題で、資料の精査に時間がかかり、配布がぎりぎりになってしまった。</p>
--

令和7年度 静岡県教育研究会英語教育研究部 活動報告

事務局 井浪 貴斗（掛川市立桜が丘中学校）

期日（曜）	活動内容
5/8（木）	【第1回委員研修会】 静岡県男女共同参画センター会議室で開催。本年度の新役員を承認し、前年度の活動報告後、本年度の事業計画及び予算審議を行い、前年度研究テーマの継続と年間活動計画を決定した。
8/6（水）	【静岡県教育研究会英語教育研究部夏季研究大会】 ○研究主題 「豊かなコミュニケーションを図る資質・能力の育成」～小中高の学びをつなぐ～ ○記念講演 演題 「小中高の学びをつなぐアセスメント・サイクルに向けて —AppreciationとAdaptation—」 講師 亘理 陽一 氏（中京大学 国際学部 教授）
10/3（金）	【第77回静岡県中学校英語弁論大会】 各地区から選ばれた18名によるスピーチコンテストを静岡県男女共同参画センター（あざれあ）で開催した。タカハシ アンナ ベアトリスさん（清水町立清水中学校）、柳瀬うるるさん（静岡市立大里中学校）、小楠麻梨音さん（浜松市立南部中学校）の3名が、高円宮杯全国大会の決勝予選大会に進出した。
10/20（月）	【第2回委員研修会】 静岡県教育会館大会議室にて開催。夏季研究大会の反省、県英語弁論大会の成果と課題、令和8年度全英連静岡大会計画案等についての話し合いが行われた。
11/14（金） 15（土）	【第75回全国英語教育研究大会（和歌山大会）】 「学びのWAをつなぐ英語教育 ― 新しい時代を主体的に生き抜く Lifelong Learners の育成を目指して」を大会テーマとして開催した。1日目は、大阪教育大学の加賀田哲也教授の基調講演と、小学校、中学校、高等学校の授業実演発表が行われた。2日目は、校種別に26の分科会発表が開催された。
2/16（月）	【第3回委員研修会】 静岡県教育会館大会議室にて開催。本年度の事業及び決算報告、令和8年度の研究テーマ、事業計画、予算案、令和8年度的全英連静岡大会についての準備検討が行われた。
3月	【英語部だより】 発行

令和7年度 (英語) 研究部 決算書 (案)

収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	増減	備 考
研 究 部 費	640,000	640,000	0	
雑 収 入		353	353	
計	640,000	640,353	353	

支出の部

科 目		予 算 額	決 算 額	増減	備 考
A 研究大会費	1 謝金	70,000	80,000	10,000	講師
	2 旅費	34,000	28,444	-5,556	講師 円 ----- 役員 円
	3 借料・損料	214,000	198,000	-16,000	会場
	4 資料費	0	0	0	
	5 通信運搬費	2,000	660	-1,340	
	6 賃金	0	0	0	
	7 需用費	10,000	2,550	-7,450	
	小 計	330,000	309,654	-20,346	
B 調査研究費	1 謝金	0	0	0	講師
	2 旅費	50,000	161,406	111,406	講師 円 ----- 役員
	3 借料・損料	0	0	0	会場
	4 資料費	0	64,200	64,200	
	5 通信運搬費	0	0	0	
	6 賃金	0	0	0	
	7 需用費	0	0	0	
	小 計	50,000	225,606	175,606	
C 研究成果刊行費	1 旅費	0	0	0	
	2 借料・損料	0	0	0	
	3 資料費	95,000	0	-95,000	
	4 通信運搬費	15,000	0	-15,000	
	5 賃金	0	0	0	
	6 需用費	0	0	0	
	小 計	110,000	0	-110,000	
D	研究用図書購入費			0	
E	A+B+C	490,000	535,260	45,260	
F	研究部内の会議費等	150,000	38,752	-111,248	
G	総 計	640,000	574,012	-65,988	

令和7年度 英語 研究部 調査研究活動費 決算書

調査研究活動名（静岡県中学生英語弁論大会）

科 目		予算額(円)	決算額(円)	積 算 内 容
調 査 研 究 活 動 費	1 謝金	80,000	70,000	講 師 10,000 円 × 7人 = 70,000
		0	7,147	1,021 円 × 7人 = 7,147
	2 旅費	24,000	14,632	審査員（西3名、中3名、東3名、県4名）計13名
		0	16,180	高円宮杯全日本中学校英語弁論大会 引率旅費
	3 借料・損料	150,000	144,440	会場借料（打合せ、当日会場、駐車場含む）
	4 資料費	0	0	資料費
	5 通信運搬費	20,000	11,749	郵送料(トロフィー返還5,770円)、振込手数料等
	6 賃金	0	0	
	7 需用費	145,000	107,683	消耗品等(賞状、トロフィー、マスキングテープ等)
計		419,000	371,831	
総 計		419,000	371,831	

令和8年度 静教研英語部 研究テーマについて

英語部事務局

1 本研究部の研究テーマの変遷

2011年度～2013年度	「実践に役立つコミュニケーション能力の育成」
2014年度	「実践に役立つコミュニケーション能力の育成～小・中・高のつながりを意識しながら～」
2015年度～2016年度	「小中高へと繋がるコミュニケーション能力の育成」
2017年度～2020年度	「新学習指導要領への移行をふまえた小中学校外国語教育の指導と小中高の接続のあり方」
2021年度～2024年度	「豊かなコミュニケーションを図る資質・能力の育成～小・中・高の接続を意識して～」
2025年度～	「豊かなコミュニケーションを図る資質・能力の育成～小・中・高の学びをつなぐ～」

2 令和8年度の研究テーマ

**豊かなコミュニケーションを図る資質・能力の育成
～小・中・高の学びをつなぐ～**

3 テーマについての説明

令和7年度より、研究テーマを「豊かなコミュニケーションを図る資質・能力の育成～小・中・高の学びをつなぐ～」として研究実践を行っている。

特に、令和8年度に開催予定の第76回全英連静岡大会を控え、前年度までの「～小・中・高の接続を意識して～」から「～小・中・高の学びをつなぐ～」へと一歩踏み込んだテーマを設定したことで、授業改善の動機づけが一層持ち上がることを期待している。

3校種間の学びをつなぐためにも、小・中・高の連続性のある10年間の学びにおいて、「目的や場面・状況などに応じたやり取り」から育てるコミュニケーション能力の育成を図り、全英連静岡大会においては、取り扱い内容の系統性や指導の継続性を踏まえた静岡県の英語教育の「文化」を発信していきたい。

また、令和7,8年度の研究部方針は、「学びを拓く」であり、まさに今、小・中・高、10年間のつながりを意識して、英語教育が担う役割を日々「耕し（拓き）」ながら確立していく姿勢が求められている。全英連静岡大会に向けて、自分たちの授業観や授業力を「耕し（拓き）」続け、不易を意識しながらも、新たな静岡県の「英語教育の文化」を構築していきたい。全国学力学習状況調査の分析を受け、即興性に焦点を当てた取り組みや、生成AIの活用など、新たなフィールドを耕しながら静岡県が進める英語教育の文化を3校種間でつないでいく。研究が加速し、山場を迎えつつある現状に鑑みて、令和8年度も本研究テーマを継続していく。

なお、静教研の基本テーマである「ときめき かかわり 未来へつなぐ」の視点からも、英語教育に求められる役割を考えたい。英語を通して、豊かに「人・もの・こと」とかかわり、コミュニケーションを図ることの魅力を実感し、ときめきをもって未来を切り拓こうとする動機づけと必要な資質・能力を育てていくことが、私たち英語教員に求められていることをここで共有しておきたい。

静教研三大事業

研究部内の会議（研究部委員研修会）等

予定日時	会場・方法	事業計画の概要	参加予定人数
5月8日(金)	静岡県男女共同参画センターあざれあ	第1回英語教育研究部委員研修会	40名
10月19日(月)	静岡県教育会館	第2回英語教育研究部委員研修会	40名
2月16日(月)	静岡県教育会館	第3回英語教育研究部委員研修会	40名

令和8年度 英語教育研究部 年間活動計画（案）

日にち	内容
5月8日(金)	第1回英語教育研究部委員研修会（あざれあ）
6月上旬	研究部・地域代表評議員研修会 兼 研究部代表者研修会① （部長・事務局長）
	夏季研究大会事前研修会 （部長・事務局長・夏季大会実行委員長・夏季大会事務局長）
8月上旬	静岡県教育研究会英語教育研究部夏季大会 ※秋に行われる全英連静岡大会がこれを兼ねるため実施しない
8月上旬	第50回東海北陸公立学校英語教育研究会名古屋大会 （部長・事務局長）
9月下旬	研究部代表者研修会② （部長・事務局長）
10月2日(金)	第78回静岡県中学校英語弁論大会 会場：静岡県男女共同参画センター（あざれあ）
予備10月9日(金)	予備：同上
10月19日(月)	第2回英語教育研究部委員研修会（県教育会館）
11月下旬	高円宮杯第78回全日本中学校英語弁論大会決勝予選大会 決勝大会 会場：よみうりホール（東京・有楽町）
11月20日(金)	第76回全国教育研究大会（全英連静岡大会） （部長・事務局長・役員・ボランティア）
11月21日(土)	会場：グランシップ
1月下旬	研究部代表者研修会② （部長・事務局長）
2月16日(月)	第3回英語教育研究部委員研修会（県教育会館）

静教研英語部夏季研究大会に係る検討事項

令和 8 年 2 月 1 6 日

英 語 部 事 務 局

1 令和 3 年 2 月 18 日「決定事項」より

- (1) 現ローテーションは令和 7 年度の湖西地区発表をもって終了する。
- (2) 令和 7 年度の残り 2 枠から、新ローテーションによる発表を開始する。
- (3) 上記 (1) (2) を基本的な考えとしつつ、令和 7 (湖西含む) ～9 年度の発表数については、令和 3 年度の委員研修会で協議する。
- (4) 令和 8 年度全英連静岡大会の発表数等は未だ確定しておらず、(3) については協議に至っていない。

2 令和 4 年度第 3 回委員研修会での決定事項

- (1) 今後、全英連静岡大会の実施と成功に向けて準備を加速させていくことになる。例年に倣えば、小中高合わせて（近隣県を含む）25 本程度の発表となる。
- (2) 令和 8 年度全英連静岡大会の前後 1 年間の夏季研究大会では、基調講演や分科会を中心に実施する（地区による研究発表を行わない）。
- (3) 令和 7 年度に予定していた湖西地区（旧ローテーションの最後）は、令和 8 年度 of 全英連で発表することとし、全英連では新ローテーションによって必要な本数の発表を行う。
- (4) 令和 10 年度以降、全英連から使用する新ローテーションの続きから発表を行うが、全英連での発表本数が分かり次第、下表にあてはめ、準備していく。

R3			R4			R5		
沼津 ○	富士 富士宮	志太	磐周 ○	榛原	東豆	小笠 ○	三島	静岡

R6			R7			R8		
賀茂 ○	富士 富士宮	志太	× 三・田	×	×	全英連静岡大会 湖西+新ローテ※		

→

R9 (夏季開催：磐・湖)			R10 (夏季開催：駿・沼)			R11 (夏季開催：小・榛)		
×	×	磐周 ○	駿東 ○	静岡 A	田・東・賀	志太 ○	富士・ 富士宮	三・沼

↑新ローテ

R12 (夏季開催：賀・東)			R13 (夏季開催：志太)			R14 (夏季開催：富士)		
静岡 B ○	榛・小	磐・湖	○					

○は研究冊子の執筆担当を表す。

第 78 回静岡県中学校英語弁論大会実施要項

- 1 目 的 本大会は、英語教育の一環として中学生の英語話し方能力の向上を図り、将来国際社会の一員として国際理解・親善に寄与することを目的とする。
- 2 主 催 静岡県教育研究会英語教育研究部
- 3 後 援 読売新聞社
- 4 大会詳細

(1) 日 時 令和 8 年 10 月 2 日(金) 12 : 20～16 : 20 (受付 11 : 40～12 : 00)

予備日 : 10 月 9 日(金) 同時刻

※自然災害や病気感染等の不測の事態により開催が危ぶまれる場合は、当日朝 6 時の時点で部長・副部長が協議し、開催可否や方法について決定し、開催しない場合は 7 時までに静教研ホームページに掲載する。出場校の担当教諭は同ホームページを確認し、出場者及びその保護者に連絡をする。ホームページには以下の QR コードからもアクセス可。



<https://skyken2.sakura.ne.jp/index.php>

(2) 会 場 静岡県男女共同参画センターあざれあ大ホール (6 階)

静岡市駿河区馬渕一丁目 17 番 1 号 TEL 054-255-8440

予備日会場 : 同上

(3) 参加資格 ア) 高円宮杯全国大会に準ずる

イ) 県東部・中部・西部の各地区大会で選ばれた、それぞれ 6 名の代表生徒計 18 名

※ただし、1 校 1 名を基本とする。出場生徒は指定された順番通りに弁論をし、順番の変更は認めない。また、出場予定生徒が参加でなくなっても、別の生徒を繰り上げて参加させることは認めない。

ウ) 私立学校および特別支援学校については、各地区大会参加にあたり、準会員になっていることを確認する。各地区大会前の予選等はこの限りでないが、予選等が静教研主催となっている場合や、東部・中部・西部の各地区大会に参加する場合は、参加申込手続きと負担金の納入が必要となる。

【準会員について】 静岡県教育研究協会準会員規定に基づき、負担金を納入し、準会員に登録することで、県内の公立小・中学校以外の児童・生徒が、同会が関与する調査研究活動に参加することができる。

(4) 発表内容 ア) 自作で議論は自由。ただし、発表時に歌を歌うこと、原稿をステージに持ち込むことを禁ずる。原則として、地区大会で用いた原稿から変更しない。

イ) 制限時間 5 分以内 (時間超過は全国大会に準じ減点とする)

ウ) 視覚に訴える道具や拡声器の使用、過度演出・演技を禁止する。

(5) 審査 ア) 審査委員 日本人 2 名、県教育委員会高校教育課 ALT 1 名の計 3 名

(県総合教育センターALT 1 名がコメントシートの記入・助言を行う。)

イ) 審査方法 3 部門 (内容・英語力・表現) で審査。特に内容を重視。
(内容 20 点、英語力 15 点、表現 15 点の 50 点満点)

※審査結果に対して、審査員に質問や抗議することを禁止する。

(6) 表彰 ア) 入 賞 3 名・高円宮杯より賞状 (読売新聞社静岡支局長贈呈)
・研究部よりトロフィー (研究部長贈呈) ※要返却
・研究部よりトロフィーのレプリカ
※入賞者 3 名を高円宮杯全日本中学生英語弁論大会
の出場資格者とする。

イ) 特別賞 若干名・審査委員長として盾 (審査委員長贈呈)

ウ) 参加賞 全 員・研究部より賞状 (研究部長贈呈)

(7) 申込み ア) 方 法 ・各地区幹事教諭は、県大会出場権を得た生徒について、
学校名・学年・性別・氏名・論題・緊急連絡先等を記載
した出場者名簿をメールで県事務局へ提出する。
・出場者は、スピーチ原稿 (A4 片面縦・Word 形式) をメール
で県事務局へ提出する。
・出場者は、高円宮杯参加申込書 (各地区へ事務局より送
付) を県大会当日、受付に提出する。
※職印、写真添付を忘れない。

イ) 期 日 9 月 17 日 (木) 16:20 必着 (大会終了後、速やかに提出。)

ウ) 申 込 先 〒439-0018 静岡県菊川市本所 670

菊川市立菊川東中学校 内

静岡県教育研究会英語教育研究部事務局 前川恭佑 宛

TEL : 0537-35-2335 FAX : 0537-35-2497

Email : kiku-higashi@kzc.biglobe.ne.jp

5 地区予選 各地区、9 月 17 日 (木) までに予選大会を実施する。各地区は要項を通知
する。

6 その他 ア) 発表中の写真およびビデオ撮影は、主催者 (委託業者) のみとする。
当日の写真、DVD の購入を希望する場合は、事前に配布される様式に
より、当日申し込む。

イ) スピーチ原稿は、A4 片面縦・Word 形式にて、次の要領で作成する。
ファイル名は「学校名_名前」とする。

<div>余白は左右 20mm 上下は指定しない</div>	<div>My Dream</div>
<div>姓・名の順で記載する</div>	<div>(一行あける)</div> <div>Fuji Sakuya (Fujisan J.H.S.)</div> <div>(一行あける)</div>
<div>My dream is...</div> <div>One day...</div>	<div> <div>フォント：Times New Roman</div> <div>文字サイズ：タイトル 15 ポイント</div> <div>本文 8～12 ポイント</div> <div>行 間：指定なし（1 枚に収める）</div> <div>そ の 他：段落間の間隔をあげない</div> <div>両端揃えで入力する</div> </div>
<div>原稿の最後に Thank you (for listening) は書かない</div>	

ウ) 自然災害等により、予備日をもっても県大会を開催できなかった場合は、各地区 1 名を選出し、合計 3 名に高円宮杯全日本中学生英語弁論大会の出場資格を与える。

エ) 県大会出場者は、必ず、高円宮杯全日本中学生英語弁論大会の日程を確認し、代表に選出された場合は出場できることを参加条件とする。

※令和 8 年度の高円宮杯は__月__日(__)から__月__日(__)であり、
本県においては__月__日(__)に 3 年生を対象とした学力診断調査
を実施予定である。**県大会への参加にあたっては、高円宮杯に出場
できる環境を十分に整えた上で申請をするよう、事前にご配慮願いま
す。**

静岡県中学校英語弁論大会詳細

1 参加資格 高円宮杯全日本中学校英語弁論大会に準ずる

- (1) 日本の中学校に在籍する生徒で、学校長が推薦したもの
- (2) 当該学校長は推薦の際、事実関係を確認の上、下記に抵触しないことを証するものとする。
 - a. 満5歳の誕生日以後に通算1年以上または継続して6か月以上、英語圏(注)に居住した者
 - b. 日本国内、海外を問わず、英語以外の教科に関し、実態として英語による教育を行っている学校(アメリカン・スクール、インターナショナル・スクール、または授業科目の半分以上を英語で行っている学校を含む)に6か月以上在籍したことがある者
 - c. 保護者または同居親族に、英語を母語とする者もしくは英語圏出身の者がいる場合
 - d. 過去に本大会の中央大会にて1位～3位に入賞した者
- (3) 上記の条項に違反して出場した場合、失格とする。
- (4) なお、インターナショナル幼稚園・保育園は、参加資格の要件に抵触しない。
- (5) 個別事案における参加資格の有無について、最終的な判断の権限は JNSA 基金に帰属する。

注：本大会の参加資格における「英語圏」とは、英語を第一言語、公用語、公用語に準ずる言語として使用する国・地域をいう。※以下参照（2021年10月時点）

アイルランド、アメリカ合衆国、アンティグア・バーブーダ、イスラエル国、インド、ウガンダ共和国、英国（グレートブリテン及び北アイルランド連合王国）、エチオピア連邦民主共和国、オーストラリア連邦、ガイアナ共和国、ガーナ共和国、カナダ、カメルーン共和国、ガンビア共和国、キプロス共和国、キリバス共和国、クック諸島、グレナダ、ケニア共和国、サウジアラビア王国、サモア独立国、ザンビア共和国、シエラレオネ共和国、ジャマイカ、シンガポール共和国、ジンバブエ共和国、スーダン共和国、スリナム共和国、スリランカ民主社会主義共和国、スワジランド王国、セーシェル共和国、セントクリストファー・ネイヴィス、セントビンセント及びグレナディーン諸島、セントルシア、ソマリア連邦共和国、ソロモン諸島、タンザニア連合共和国、ツバル、ドミニカ国、トリニダード・トバゴ共和国、トンガ王国、ナイジェリア連邦共和国、ナウル共和国、ナミビア共和国、ニウエ、ニュージーランド、パキスタン・イスラム共和国、バハマ国、パプアニューギニア独立国、パラオ共和国、バルバドス、東ティモール民主共和国、フィジー共和国、フィリピン共和国、ブルネイ・ダルサラーム国、ベリーズ、ボツワナ共和国、香港、マーシャル諸島共和国、マラウイ共和国、マルタ共和国、マレーシア、ミクロネシア連邦、南アフリカ共和国、南スーダン共和国、モーリシャス共和国、ヨルダン・ハシェミット王国、リベリア共和国、ルワンダ共和国、レソト王国、レバノン共和国

2 制限時間 5分（時間超過は減点となる）

- ・計時はスピーカーの第一声、~~または第一動作~~から始まり、最後の一声で終了する。
- ・~~第一動作とは、開始時の例は含めず、ジェスチャー等でスピーチの内容に関連する動きを指す。~~
- ・スピーチの最後に Thank you. を言う、言わないにかかわらず、原稿で判断し、原稿の最後を言い終わった時点で終了とする。
- ・時間超過のベルは鳴らさない。

英語弁論（東部・中部・西部）大会の運営見直しについて

話し合い参考資料

現行

	エリア	地区	市	学校数	学校計	エリア 大会へ	県大会 へ
1	東部大会 93校	賀茂	下田	1	8	1	6
			東伊豆	2			
			河津町	1			
			南伊豆	2			
			松崎町	1			
			西伊豆	1			
		東豆	伊東	5	9	1	
			熱海	4		1	
		田方	伊豆	1	6	2	
			伊豆の国	3			
			函南町	2			
		三島	三島	7	7	2	
		駿東	御殿場	6	17	4	
			裾野	4			
			清水町	2			
長泉町	2						
小山町	3						
沼津	沼津	18	18	3			
富士	富士	15	15	3			
富士宮	富士宮	13	13	2			
2	中部大会 91校	静岡	静岡	45	45	15	6
		志太	焼津	9	26	7	
			藤枝	10			
			島田	7			
		榛原	吉田	1	6	2	
			牧之原	3			
			川根本町	2			
		小笠	御前崎	2	14	2	
			菊川	3			
			掛川	9			
3	西部大会 70校	磐周	森町	2	16	5	6
			磐田	10			
			袋井	4			
		湖西	湖西	5	5	2	
		浜松	浜松	49	49	15	

	エリア	地区	市	学校数	学校計	県大会 6名	県大会 7名	県大会 8名
1	東部大会 93校	賀茂	下田	1	17	1	1	1
			東伊豆	2				
			河津町	1				
			南伊豆	2				
			松崎町	1				
			西伊豆	1				
		東豆	伊東	5				
			熱海	4				
		田方	伊豆	1	13	1	1	1
			伊豆の国	3				
			函南町	2				
		三島	三島	7				
		駿東	御殿場	6	35	2	3	3
			裾野	4				
			清水町	2				
			長泉町	2				
			小山町	3				
		沼津	沼津	18				
		富士	富士	15	28	2	2	3
		富士宮	富士宮	13				
2	中部大会 91校	静岡	静岡	45	45	2	3	4
		志太	焼津	9	26	2	2	2
			藤枝	10				
			島田	7				
		榛原	吉田	1	20	2	2	2
			牧之原	3				
			川根本町	2				
3	西部大会 70校	小笠	御前崎	2				
			菊川	3				
			掛川	9				
		磐周	森町	2	21	2	3	3
			磐田	10				
			袋井	4				
		湖西	湖西	5				
		浜松	浜松	49	49	4	4	5

※水泳、ソフトボール、乗道等 東部一括で行う競技あり。

令和7年度 支部再編について

R7.9.19

スピーチ

東中西をなくし、地区大会から

県大会へ。

18人→20人=

		学校数			7支部	6支部	3地区	8支部	
		公立	私立+α	合計	第1案	第2案	第3案	第4案	
1	賀茂	8	0	8	32	52	101	24	
2	東豆	9	0	9					
3	田方	7	0	7					
4	三島	7	1	8	39	49		28	
5	沼津	18	2	20					
6	駿東	18	1	19	30			19	
7	富士	15	1	16					
8	富士宮	13	1	14	56	56	90	30	
9	静岡	43	13	56					
10	志太榛原	31	3	34			34	34	34
12	磐田	16	1	17	32	32	94	32	
14	小笠	14	1	15					
11	浜松	48	9	57	62			62	62
13	湖西	5	0	5					

下田市、南伊豆町、松崎長、西伊豆町、河津町、京伊豆町

伊東市、熱海市

伊豆の国市、伊豆市、国南町

R7 伊豆中=(修善寺・天城・中伊豆)

三島市

沼津市

裾野市、御殿場市、清水町、長泉町、小山町

富士市

富士宮市

静岡市

藤枝市、焼津市、島田市、牧之原市、吉田町、川根本町

袋井市、磐田市、森町

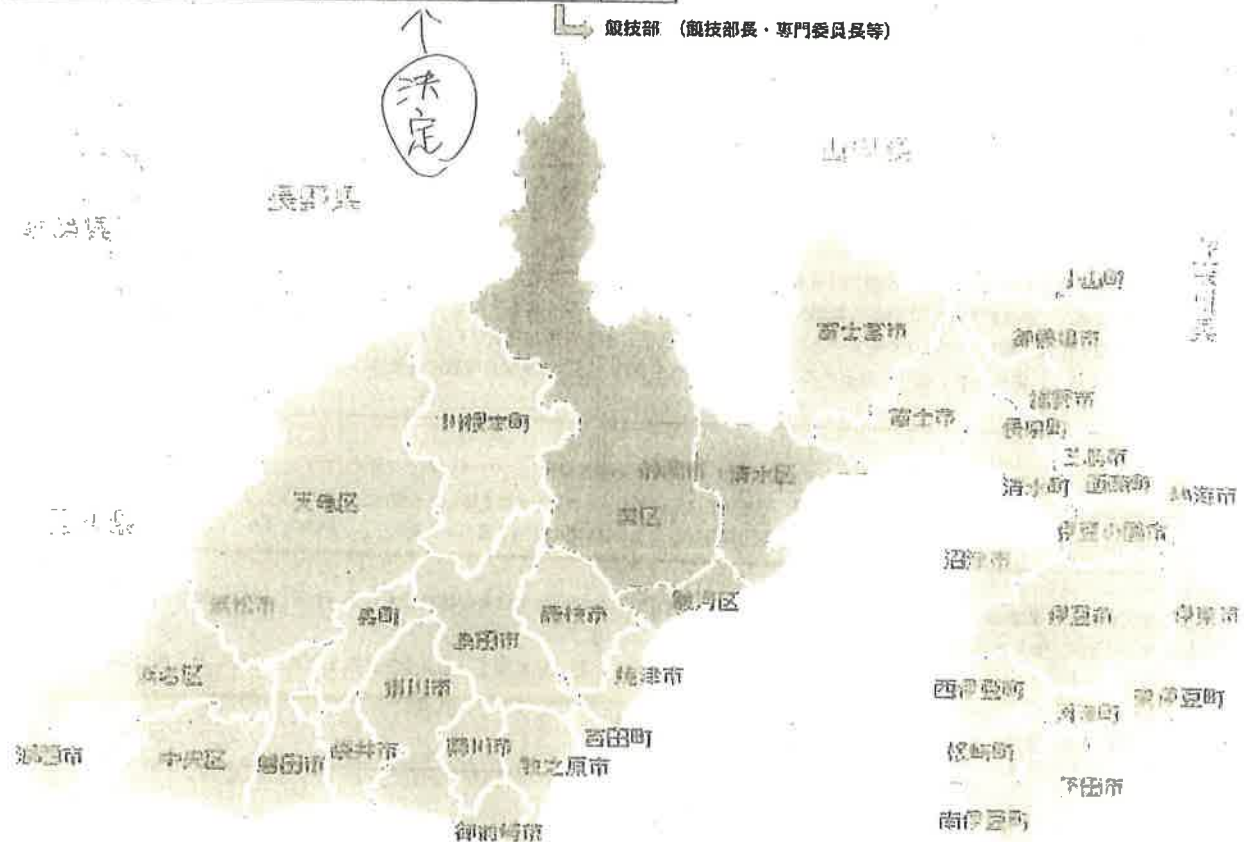
掛川市、菊川市、御前崎市

浜松市

湖西市

競技部 (競技部長・専門委員長等)

決定



第76回全国英語教育研究団体連合会総会・第76回全国英語教育研究大会(全英連静岡大会)

1 開催関係団体

- (1) 主 催：全国英語教育研究団体連合会
- (2) 後援(予定)：文部科学省、静岡県、静岡県教育委員会、静岡市、静岡市教育委員会
- (3) 大会運営：全英連静岡大会実行委員会
(静岡県高等学校英語教育研究会、静岡県教育研究会英語研究部)

2 目的 「夢を広げる英語教育～未来を拓くグローバル人材の Agency 育成」

本大会では、「OECD ラーニング・コンパス」の中心的な概念である「Agency(エージェンシー)」に焦点を当てます。Agency は、「変化を起こすために、自ら目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力」と定義されています。未来を担う子どもたちが、この力を、変化の時代を生き抜くための「羅針盤」として育ていけるよう、私たちはどのような環境や機会を提供できるのか—その可能性を、英語教育の視点から共に考えてまいります。

3 期 日 2026(令和8)年 11 月 20 日(金)・21 日(土)

4 会 場 静岡コンベンションアーツセンター グランシップ

5 日 程

第1日 11 月 20 日(金)

- (1) 総会
- (2) 記念講演 講師 細田 真由美 氏
うらわ美術館館長、兵庫教育大学客員教授、東京大学公共政策大学院講師、前さいたま市教育長
- (3) 実践発表
- (4) 懇親会 会場 アーセンティア迎賓館 静岡(予定) 静岡駅南口より徒歩8分

第2日 11 月 21 日(土)

- (1) 分科会 第1部
- (2) 分科会 第2部
- (3) エクスカーション(午後) 希望による

6 全国理事会

- (1) 2026(令和8)年 11 月 19 日(木)14:30～16:30
- (2) 静岡コンベンションアーツセンター グランシップ内 910 会議室(予定)

1 運営スタッフの募集について

- (1) 運営スタッフの業務を公務として取り扱うため、11月21日(土)の業務は4時間分の振り替え対象となります。
- (2) スタッフは公募と推薦から決定します。
- (3) 運営スタッフは参加費を免除します。

2 研究発表について

(1) 1日目

ア. 発表は動画形式とします。

イ. 2会場・2校種同時上映とします。

構成案（大ホールの発表の順番は今後決定します。）

	大ホール	中ホール
実践発表Ⅰ	小学校	中学校
実践発表Ⅱ	高校	中学校

ウ. 実践発表の時間はストップモーションや指導助言を含めて70分間とします。

(2) 2日目

ア. 13地区の発表者、指導助言講師（別紙参照）

イ. 分科会は1部90分間とし、2部行う。

構成案：導入（自己紹介・学校紹介）5分

発表 55分

質疑応答 10分

指導助言 20分

ウ. 分科会配置スタッフ

会場責任者（発表者地区より選出）、司会、記録者（計5名×26会場）を配置します。

3 会計について

(1) 令和7年度決算について

静教研決算

・収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
全国大会補助金	280,000	280,000	0	
雑収入		38	38	
計	280,000	280,038	38	

・支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
謝 金	195,000	195,000	0	
旅 費	85,000	55,228	－29,772	
振込手数料	0	1,980	1980	
計	280,000	252,208	－27,792	

残金：27,830

全英連決算

・収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
大会準備金	150,000	150,000	0	
計	150,000	150,000	0	

・支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
旅 費	150,000	39,020	－110,980	
口座開設手数料	0	550		
計	150,000	39,570	－110,430	

残金：110,430

(2) 令和8年度予算について（静教研＋全英連の合算）

・収入の部

科 目	来年度予算額	備 考
静教研分担金	420,000	静教研から
静教研全国大会補助金	147,830	昨年度の残金27,830＋今年度120,000
大会準備金	110,430	昨年度の残金（全英連から）
合 計	678,260	

・支出の部

科 目	本年度予算額	備 考
謝 金	390,000	1人当たり15,000×13地区（各地区2回まで）
講師への交通費など	237,136	昨年度実績に基づき概算（2回派遣分）
雑 費	51,124	
合 計	678,260	

発表本番に向けて、来年度も計画的な研修会の実施をよろしくお願いします。

- 各地区（市町）の代表として発表 特に、焦点授業（小：富士宮、中：静岡）は地区でのバックアップを
- 現行の学習指導要領に則った発表内容となるよう、授業実践と協議の往還を
- 指導助言者との連携（オンラインの活用・対面は1回分予算（謝金1.5万円+旅費実費）あり）
- 発表では、プレゼン資料（パワポ等）を活用 ○参加者への配布資料の吟味

事前研Ⅰ 令和7年8月6日（水）参集（韮山中）静教研夏季研究大会の午後

実施済み

- ◆参加者 発表者・全英連研究発表部員・静教研地区代表（発表地区）のうち参加可能な者
- ◆内容 顔合わせ、連絡先交換、研究内容の共有 ◆助言講師 亘理 陽一教授（中京大学）
- ◆その他 当日不参加者が複数の場合、後日不参加者でオンライン実施（予定）

事前研Ⅱ 令和8年2月16日（月）オンライン会議 13：30開始 第3回静教研委員研修会後半の時間

本日

- ◆オンライン参加者 研究発表者、全英連研究発表部員 ◆参集参加者（県会館） 静教研地区代表
- ◆講師 静岡大学 稲葉英彦准教授、大瀧綾乃講師
- ◆内容 2グループに分かれて、発表（1人15分） 講師指導助言30分 ◆事前課題あり（冊子用原稿・パワポ資料）

事前研Ⅲ 令和8年8月 日（ ）13地区別研修会（静教研夏季研修会の代替研修）

- ◆会 場 13地区で決定（地区の状況によって、オンライン可）
- ◆参加者 研究発表者 全英連研究発表部員、静教研役員（左記を最低限の参加者として実施）
- ◆内 容 研究発表内容（冊子用原稿・提示用パワポ・紀要用原稿）について、協議
※冊子用原稿は、夏頃提出予定 ※紀要用原稿は1か月前頃提出

事前研Ⅲ、8月または、
令和8年10月までに
各地区で指導助言講師
を招聘し、研究のまと
めを行う

本 番 令和8年11月20日（金）焦点授業発表 小学校（富士宮市）、中学校（静岡市）

※中学校（静岡市）は75分程度の発表を2回行う

令和8年11月21日（土）第1部（9：30～11：00）7地区発表
（時間は予定） 第2部（11：20～12：50）6地区発表

	前半	研究発表者		指導助言講師	発表運営責任者		質疑マイク担当者		司会進行		会場責任者		記録	
校種	学校名（地区）	発表者	研究テーマ（仮）	指導助言講師	静教研地区代表（校長）		静教研地区代表（教諭）		全英連研究発表部員		各地区から選出		広報記録部から	
小学校	磐田市立竜洋西小学校（磐周）	牧野 翔真	「会話の即興性を高めるための指導」	静岡大総合C 稲葉 英彦 准教授	山脇直美	袋井市立三川小学校	松下孝行	磐田市立豊田中学校	牧野 里江子	磐田市立西小学校				
	川根本町立光の森学園義務教育学校（前期課程） （榛原）	八木 悠	主体的に英語を聞いたり話したりする児童・生徒の育成～小・中の学びをつなぐ～	静岡大総合C 稲葉 英彦 准教授	横井嘉治	吉田町立吉田中学校	杉本実季	吉田町立吉田中学校	笠原 真智子	島田市立川根小学校				
中学校	三島市立錦田中学校（三島）	山田 隼也	「コミュニケーション能力の育成」に関する内容（検討中）	神奈川大 久保野雅史 教授	宇津木智如	三島市立東小学校	原 美聡	三島市立錦田中学校	藤池 ゆかり	沼津市立大平中学校				
	長泉町立北中学校（駿東）	杉山 大介	関わり方を意識し、豊かなコミュニケーションを図る生徒の育成	関西大 山野 有紀 教授	小林浩之	長泉町立北中学校	横山由香	長泉町立北中学校	伊藤 賢一	御殿場市立富士岡中学校				
	富士市立元吉原中学校（富士）	稲垣 研人	「帯活動を支えとした生徒にゆだねる授業の提案～「書くこと」を中心とした実践～」	至学館大 山田 誠志 教授	（金子哲也）	（富士宮市立北山中学校）	稲葉広将	富士市立岳陽中学校	望月 香織	富士市立吉原第三中学校				
	静岡市立竜爪中学校（静岡A）焦点授業	松本 匡翼	「目的・場面・状況に応じた課題設定の工夫～生徒の主体的な発信を促す言語活動～」	静岡大 河村 道彦 教授	黒瀬純孝	静岡市立豊田中学校	石丸友梨香	静岡市立南中学校	森 いずみ 荒木 智美	静岡市立安倍川中学校 静岡市立美和中学校				
	湖西市立新居中学校（湖西）	鈴木 宏昌	コミュニケーション力の向上を目指したリーディング活動の実践	静岡大 大瀬 綾乃 講師	木戸脇佳代	湖西市立知波田小学校	鈴木宏昌	湖西市立新居中学校	笠原 真智子	島田市立川根小学校				

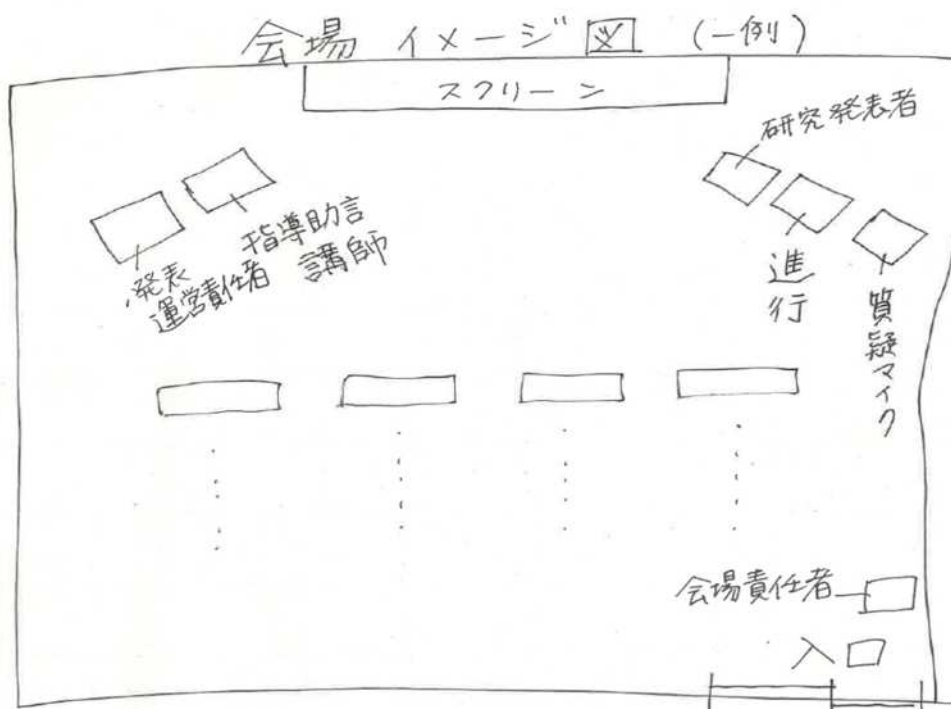
	後半	研究発表者		指導助言講師	発表運営責任者		質疑マイク担当者		司会進行		会場責任者		記録	
校種	学校名（地区）	発表者	研究テーマ（仮）	指導助言講師	静教研地区代表（校長）		静教研地区代表（教諭）		全英連研究発表部員		各地区から選出		広報記録部から	
小学校	富士宮市立大富士小学校 富士宮市立上野小学校 （富士宮）焦点授業	赤堀 幸一 椎原 美貴 渡邊 里穂	こどもが主体的に外国語学習に取り組み、 相手を意識して自分の考えや気持ちを伝え合う 授業づくり	京都橘大 中野 聡 教授	金子哲也	富士宮市立北山中学校	（稲葉広将）	（富士市立岳陽中学校）	植松 宗一郎	富士宮市立富丘小学校				
	静岡市立宮竹小学校 （静岡B）	浅田 晃一	「児童が主体的に活動に取り組むために ～各領域における有効な手立てとは～」	静岡大 河村 道彦 教授	黒瀬純孝	静岡市立豊田中学校	石丸友梨香	静岡市立南中学校	笠井 真理 増田 宏	静岡市立城内中学校 静岡市立清水入江小学校				
中学校	伊東市立対島中学校 （賀茂・田方・東豆）	川村 遼	話すこと『やりとり』における、思考力・判断 力・表現力を育成するための中間指導・中間評価 に関する実践と研究	東京家政大 太田 洋 教授	石井曉彦（敬語） 福井孝子 山本吉則	下田市立白浜小学校 伊豆の国市立大仁北小学校 熱海市立泉中学校	米山寛人 松村夏実 加藤亜紀奈	松崎町立松崎小学校 伊豆の国市立長岡中学校 伊東市立南中学校	木村 誠	伊東市立対島中学校				
	沼津市立第一中学校 （沼津）	北川 諒	沼津市統一パフォーマンステストを軸に した言語活動の工夫	静岡大 大瀬 綾乃 講師	大川美紀	沼津市立門池中学校	北川 諒	沼津市立第一中学校	藤池 ゆかり	沼津市立大平中学校				
	焼津市立焼津中学校 （志太）	藤根 聖太	子どもの主体性の育成を目指して ～自分たちで創る授業を通して～（仮）	関西外語大 直山 木綿子 教授	飯塚稔文	藤枝市立高洲中学校	石神美希	藤枝市立高洲中学校	飯塚 稔文	藤枝市立高洲中学校				
	掛川市立菊川東中学校 （小笠）	前川 恭佑	自分の思いや考えを主体的に英語で 表現できる生徒の育成	常葉大 新妻 明子 教授	染葉美智子	掛川市立城北小学校	前川恭佑	菊川市立菊川東中学校	大谷 加奈子	掛川市立西中学校				

※塗りつぶしのセルは、担当者を決定したい or 担当者を選出したい
※前半後半は入れ替え可

※会場責任者は、各地区から選出したい

分科会 進行イメージ

時間	項目	内容
3	注意事項	●非常口の確認
		●配付資料の確認（データの置き場所、二次元コード）
		●この後の時間設定について（研究発表55分、質疑応答10分、指導助言20分で運営していきます。御協力を）
2	役員紹介	●進行が「学校名とフルネーム」紹介 研究発表者、指導助言講師、運営責任者、質疑マイク係、記録係、会場責任者、進行
55	研究発表	●60分を超えない
		●指導助言者と相談し、2人のやりとりで進めてもよい。その場合75分。
10	質疑応答	●係がマイクを持っていく
		●所属校・お名前を話してから質問を
		●質問者に記録のため、質疑後に用紙を渡すので、質問・学校名・名前を記入して退室の際、係に提出
		●発表に対する質疑であって、研究発表者への批判的な内容について御遠慮願う発表者は2年前から準備を進めてきた
		●質問をまずまとめて聞き、その後、研究発表者が回答するカタチ
		●10分を超えないように
20	指導助言	●進行が改めて講師を紹介（大学名とお名前のみ）してお願いする
	閉会	忘れ物のないように退室ください。



(差し込み所属学校名)

(差し込み氏名) 様

全国英語教育研究大会静岡大会 2026

実行委員長 山崎 裕子

(静岡県立浜名高等学校長)

副実行委員長 佐藤 一朗

(静岡県教育研究会英語研究部長)

(藤枝市立大洲中学校長)

全英連静岡大会 2026 紀要への寄稿について(お願い)

寒冷の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。本大会への御理解と御協力を賜り、感謝いたします。

さて、本大会開催後、2027 年3月ごろに大会紀要を発行する計画であります。

つきましては、より正確に授業実演の内容を記録したく、発表者のみなさまに当日の授業発表内容を基に、紀要の御執筆をお願いできればと存じます。御多忙の折恐縮ではございますが、下記のとおり原稿を御提供くださいますよう、お願い申し上げます。

記

1 大会紀要について(見込み)

仕様: A5版、250 ページ程度、1冊につき 1,700 円(見込み)

目的: 希望する参加者や一般への販売及び大会記録

2 原稿について(体裁)

- ・授業実演について4ページ(概略と指導案)
- ・Microsoft Word 論文形式
- ・A4版縦(で用意いただいたものを、A5版に縮小印刷します)
- ・文字、写真、表等すべて 70%に縮小することを御承知おきください。
- ・データで提出(Word 及び PDF)
- ・余白は上下左右端各 25mm
- 横書き 二段組も可能
- MS 明朝体 12 ポイント
- (埼玉大会では 10.5 ポイントの部分もあるので適宜変更してください)
- ・添付の 2024 年埼玉大会原稿とひな型の Word データを参考にしてください。

3 原稿について(内容)

基本的な構成について

・1ページ目「授業実演について」

- ①学校紹介
- ②研究テーマの設定の理由
- ③研究の内容
- ④授業実演について

・2～4ページ目「学習指導案」

- ①単元名
- ②単元の目標
- ③単元設定の理由
- ④単元の評価基準
- ⑤指導と評価の計画
- ⑥本時案

注意事項：著作権に関わるデータは原則掲載しないようにお願いします。

4 提出期限

2026年10月27日(木)

5 提出方法

~~以下のメールアドレスに原稿(WordとPDF)を添付して送信してください。~~

~~浜松市立高等学校 刑部 雅子~~

~~masako01.gyobu@hamamatsu-h.ed.jp~~

6 その他

- ・提出後に変更を御希望の場合は、担当まで御相談ください。
- ・発表当日の様子を写真撮影し、適宜掲載します。
- ・編纂の過程でいただいた原稿に体裁等に若干の変更を加える可能性がありますので、予め御了承ください。
- ・2026年12月ごろに写真も含めて関係部分の原稿を一度確認いただきたく存じます。
- ・御不明な点がございましたら、担当までお問合せください。

担 当 刑 部 雅 子
(浜松市立高等学校教頭)
電 話 053-453-1105(代表)

タイトル

授業者：〇〇 〇〇

(小学校)

助言者：〇〇 〇〇

1 学校紹介

2 研究テーマの設定の理由

3 研究の内容

4 授業実演について

相手意識をもち、自ら進んで既習事項を使い コミュニケーションを図ろうとする態度を育む授業づくり

授業者：渡邊 瑞月

助言者：及川 賢

1 学校紹介

本校は、昭和46年に開校し、今年度で54年目を迎える。本校区には、駅や公民館など幅広く各地域の歴史や文化・教育素材に触れる施設が多くあり、教職員一丸となって学校教育目標である「かしこく たくましく 心豊かな 児童」の具現化に努めている。「瞳・笑顔・汗・会話 きらきら輝く 鈴谷の子」のスローガンの下、家庭・地域との連携を深めながら、開かれた学校づくりを推進している。グローバル・スタディ科においては、「外国の方と英語で積極的にコミュニケーションを図ることができる子ども 日本やさいたま市の伝統・文化に誇りをもち、将来にわたり、社会に貢献するこども」の育成に努め、英語を使って自分の思いが相手に伝わる喜びを児童が実感できることを目指している。

2 研究テーマの設定の理由

令和5年度「英語教育実施状況調査」によると、小学校では中学校での指導を意識した指導が不十分であり、より充実したカリキュラム連携が課題として挙げられている。「話すこと〔やり取り〕」に関して、小学校では「既習事項をもとに自分の力で質問したり、答えたりすることができるようになること」が学習指導要領に示されている。これは、中学校の外国語科での「簡単な語句や文を用いて即興で話すこと」に繋がっており、中学校の言語活動を意識した学習活動を小学校に取り入れることにより、中学校での学習に対しての不安感軽減に努めることができると考える。

3 研究の内容

本テーマについて、三つの観点を立てる。

- (1) Small Talkなどの帯活動を授業の学習導入に位置付けたり、中間指導を適切に設定したりすることで、児童が学習したことを主体的に使って表現する力を高めることができ、コミュニケーションを取ることのよさを実感することができるだろうか。
- (2) グループによる活動を通してALTの提示した条件に合わせた提案内容や言葉、伝え方を児童が考えることで、思考力・判断力・表現力を互いに高め合うことができるだろうか。
- (3) 発表形式をディスカッションにすることにより、中学校での学習のイメージを児童が掴み、表現の幅が広がる楽しさを感じ、これからの学習への意欲が高まるだろうか。

4 授業実演について

「おすすめの旅行先をALTに提案する」活動を行う。発表の形式をプレゼンテーションではなく、ALTの提示した条件にあった提案ができるかを意識した児童同士のディスカッションを行う。中学校の学習とのつながりを意識した単元構成を展開していきたい。Small Talkや中間指導を適切に行い、既習表現を使って自分の思いに近い表現を選びながら、相手意識や目的意識をもって、自分たちの考えをまとめていく姿を期待する。

小学校授業実演 指導案

授業者：○○ ○○

助言者：○○ ○○

1 単元名

2 単元の目標

3 単元設定の理由

4 単元の評価基準

5 指導と評価の計画（総時数 時間）

6 本時案（第 時）

小学校授業実演 指導案

授業者：渡邊 瑞月

助言者：及川 賢

1 単元名 Our Project 1 "Where do you want to go for your trip?" (8時間扱い)

2 単元の目標

- ・英語でのディスカッションにおける話し方や論理的な提案の仕方、提案に対する返答の仕方を理解する。
- ・簡単なディスカッションにおける話し方、論理的な提案の仕方、提案に対する返答の仕方を身に付ける。【知識及び技能】
- ・おすすめの旅行先を伝えるために、その場所でできる体験等について伝えたり、相手の提案内容を受けて質問したりする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・おすすめの旅行先を伝えるために、その場所でできる体験等について伝えたり、相手の提案内容を受けて質問したりしようとする。【学びに向かう力、人間性等】

3 単元設定の理由

本単元では、これまで学習してきた表現や語彙を使いながら、順を追って提案をしたり提案内容に対して質問したりすることを最終目標とする。また、ALT におすすめの場所を提案することで、「ALT にもっと日本のことを知ってもらいたい」という気持ちが湧き、日本のよさを伝えたいという意欲向上のよい機会とすることができる。あらかじめ用意された原稿を読むことを避け、児童がこれまで学習してきた表現を使って話すことを目指しているが、外国語に苦手意識をもつ児童が増えることは避けなければならない。そのため、やりとりの一つの手段としてワークシートや写真を活用していく。

言語材料としては、「おすすめの場所の魅力やできること」を友達や ALT に伝えるために We can eat/see/play/visit/buy 等を使う。既習の表現や語彙を活用して、自分たちの思いに近い表現を使って発表することを目指す。It's delicious., It's big. などの形容詞を使った表現も使い、魅力がより伝わりやすい提案となるように児童と作戦を立てる。

4 単元の評価基準

	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
話すこと (やり取り)	〔知識〕 ディスカッションにおける話し方や論理的な提案の仕方、提案に対する返答の仕方を理解している。	〔技能〕 ディスカッションにおける話し方、論理的な提案の仕方、提案に対する返答の仕方を身に付けている。	おすすめの旅行先を伝えるために、その場所でできる体験等について伝えたり、相手の提案内容を受けて質問したりしている。	おすすめの旅行先を伝えるために、その場所でできる体験等について伝えたり、相手の提案内容を受けて質問したりしようとしている。

5 指導と評価の計画（総時数 8 時間）

時	内容						目標・評価規準 (知)・・・知識・技能 (思)・・・思考・判断・表現 (態)・・・主体的に学習に取り組む態度
	主な活動	聞く	話す(やりとり)	話す(発表)	読む	書く	
1	モデルパフォーマンス	○					(態)：単元のゴールを理解し、見通しをもった単元計画が立てられている。
	Lesson goal: ALT の出した条件にあったおすすめ冬休み旅行プランを提案したり、他のグループの提案内容にそって質問したりしよう。						
2	提案の仕方を理解する。	○	○				(知)：提案の仕方の語彙や表現を理解し、聞き取ったり、たずね合ったりする技能を身に付けている。 (態)：目的に沿って、相手に配慮しながら話そうとしている。
3	提案に対する返答の仕方を理解する。	○	○				(知)：提案に対する返答の仕方を理解し、聞き取ったり、たずね合ったりする技能を身に付けている。 (態)：目的に沿って、相手に配慮して話そうしたり、相手の話を理解しようとするめたりしている。
4	提案に対して、What can we ~?等を用いて質問したり、質問へ回答したりする方法を理解する。	○	○				(知)：提案に対する返答の仕方や質問への回答の仕方を理解し、提案内容を聞き取ったり、質問したりする技能を身に付けている。
5 探究	おすすめする旅行先について調べ、知識を深めることができる。	○	○				(思・態)：おすすめする旅行先について調べながら、提案や回答がしやすいように分類している。[しようとしている]。
⑥ 本時	ALT の条件にあった順序で、おすすめの旅行先の魅力がより伝わるように、グループで作戦を考える。	○	○				(思・態)：おすすめの旅行先について、相手に分かりやすく順序立てて話している[話そうとしている]。
7	おすすめの旅行先の魅力やそこでできる体験等について、論理的に伝えたり相手の提案内容を受けて質問したりすることができる。	○	○				(思・態)：おすすめの旅行先を伝えるために、その場所のできる体験等について伝えたり、相手の提案内容を受けて、質問したりしている。[しようとしている]。
8	おすすめの旅行先の魅力やそこでできる体験等について、論理的に伝えたり相手の提案内容を受けて質問したりすることができる。 ・パフォーマンステスト	○	◎				(思・態)：おすすめの旅行先を伝えるために、その場所のできる体験等について伝えたり、相手の提案内容を受けて、質問したりしている[しようとしている]。
短時間学習	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでおすすめの提案先について調べ、プレゼンテーションに必要な資料を集める。 ・例をもとにペアディスカッションの練習を行う。 ・パフォーマンステストに向けて、グループでディスカッション練習を行う。 						

6 本時案 (第6時)

Procedure/Activity/Time (授業手順/活動例/時間)	Students (児童)	English Teacher/ALT (英語専/ALT)	Notes/Materials (◆留意点○教具等★評価)
1.Greetings/Weather & Day (あいさつ/天気・曜日) 2分	Greetings		○天気、月・曜日、季節カード
2. Small Talk Time(帯活動) 8分 ①JET が場面や状況の説明をする。 ②ペアになり、2 回行う。 ③ふり返りをする。	Today's topic is When do you want to go to Nikko, in fall or in winter?		◆理由を聞き意見を言うことで、can～. の表現を使うことに慣れさせる。 ◆ふり返り時既習表現で表現できないか、全体で考える。
Today's goal: ALT の好みや条件に合わせたおすすめの旅行先の魅力がより伝わるよう、グループで作戦を考えよう。			
3.条件と好みの確認 5分 ①ALT におすすめの旅行先を伝えるための条件と好みを確認する。 ②なるべく ALT の願いを叶えられるようにおすすめ場所の整理をすることを確認する。	条件や好み (Condition) ○冬の 3 日間で行く。○自然が見られる。 ○おいしい食べ物や新鮮な果物が食べたい。 ・きれいな場所に行きたい。 ・博物館や科学館に行きたい。 ・お祭りやダンスが見たい。		◆どのような条件があるかを全体で整理する。 ◆条件や好みに合わせて提案を伝えることを確認する。 ◆○は絶対条件であることを児童と確認する。 ○Canva
4.Model Activities (慣れ親しむ活動) 5分 ①教員と児童が1つのグループになりモデルを行う。 ②児童からアイデアを開き、グループでの話合いのイメージをもたせる。	T: We are the Gunma team. How about No.1? S: We can go to Kusatsu hot springs. T: Nice idea. What can we do? S: We can see the snow from hot springs. T: Good idea. How about No. 2? S: We can eat delicious soba. T: I see. What else can we eat? S: We can eat Onsen manju. It's delicious. T: That's nice. How about No.3? S: Mmm... Do you have any ideas? (他の児童におすすめの場所やものを聞く). S: Yubatake. T: Nice idea. We can see Yubatake.		◆どの順番で理由を伝えか、初めに使用する理由と質問の回答のための詳しい情報を整理する。 ◆音声だけで聞き取りが難しい児童もいるため、ジェスチャーや視覚資料をつけて行う。 ◆画像や資料等を出すタイミングを考える。 ○ワークシート ○スライド資料
5.Activities Planning and Practice 10分	①ALTの出した条件に合わせて、調べてきた内容をグループで整理し、発表の順番を決める。 (発表の順番のときは、日本語で話し合ってもよいこととする。) ②グループでおすすめする順番を確認し、ディスカッションの提案練習をする。 ③提案は1人1つずつ言えるように順番を決めておく。		◆発表の順番に合わせてスライドに番号をふる。 ★おすすめの場所提案に対して、相手と共有できるよう話している。(ホワイトボード) ○PC・資料ワークシート
6.Communication Activities (慣れ親しむ活動) 10分 ①作った資料をもとに、代表グループに発表をしてもらう。 ②どんなところに工夫が見られたか話し合う。 ③代表グループの児童と一緒に今後に向けての振り返りを行う。	Student: Let's go to Hokkaido. Hokkaido is a good place. First, we can visit hot springs. It's beautiful. Second, we can visit Mt. Tarumae. It's beautiful. Third, we can eat ramen. What do you think? T: You said we can eat ramen. That's great. What flavor can we eat? Student: We can eat miso butter ramen. It's delicious. T: I see. Thank you.		★おすすめの場所の魅力を伝えるための語彙や表現を理解し、提案内容をグループで考え、提案を話す技能を身に付けている。(行動観察) ◆提案時にできることだけではなく、多様な質問にも答えられるようにするとよいことに気づかせる。 ◆ALT の提示した条件に近い提案ができていないか、全体で確認する。
7.Feedback & Greetings (振り返り/あいさつ) 5分 自己評価や相互評価	めあてに沿った活動ができていたか自己評価・相互評価する。 Good bye.	That's all for today. Good bye song. See you.	○ふり返りシート

タイトル

授業者：〇〇 〇〇
(中学校)
助言者：〇〇 〇〇

- 1 学校紹介
- 2 研究テーマの設定の理由
- 3 研究の内容
- 4 授業実演について

中学校授業実演 指導案

授業者：○○ ○○

助言者：○○ ○○

1 単元名

2 単元の目標

3 単元設定の理由

4 単元の評価基準

5 指導と評価の計画（総時数 時間）

6 本時案（第 時）

中学校授業実演 学習指導案

学校名：さいたま市立原山中学校

指導者：教諭

黒崎 輝

1. 単元名

What Can We Do for Japan? Global Studies Curriculum

PROGRAM 6: The Great Pacific Garbage Patch (pp.75-81) SUNSHIE ENGLISH COURSE 3 開隆堂

2. 単元の目標

SDGs の視点に立って、自分たちが今の日本に何ができるか、何をすべきか、について、グループで事実や自分たちの考えを整理して伝えたり、相手からの質問に対して答えたりできるようになる。

本単元と関連する「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標

話すこと〔やり取り〕②

身近なトピックについて、自分の意見や考えをわかりやすく話し、情報交換したり、会話を続けたりすることができる。

3. 単元設定の理由

本単元のテーマは、今まで「グローバル・スタディ」の授業で身に付けてきたことの総仕上げとして行うディスカッションであり、クラスメイトと協力して論理的な考え方や意見を相手に伝えていくことができるようにしたい。教科書本文では太平洋ゴミベルトを中心とした環境汚染に関する Boyan Slat のアイデアや取組を扱っているが、本単元終末においては、SDGs の視点から「自分たちは今の日本に何ができるか、何をすべきか」という意識のもと、将来の日本を担う者として、個人および各グループでSDGs の目標 13「気候変動に具体的な対策を」について、自分たちが現代の日本において取り組むことができる提案を考え、クラスメイトとディスカッションを行う。

4. 単元の評価規準（「話すこと〔やり取り〕」の評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・（知識）関係代名詞の目的格（which/that/ 省略）を用いた文の構造を理解している。 ・（技能）関係代名詞の目的格を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs に関するディスカッションの中で、自分たちが今の日本にできること、すべき取組について、自分の考え方や意見が伝わるように、提案やアイデアを即興で伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs に関するディスカッションの中で、自分たちが今の日本にできること、すべき取組について、自分の考え方や意見が伝わるように、提案やアイデアを即興で伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。

5. 指導と評価の計画 3/9

時間	ねらい (■), 主な言語活動等 (丸数字)	知	思	態	備考
1	<ul style="list-style-type: none"> ■ プログラムの内容を理解する。 ① 単元の説明 ■ SDGs の目標 13 について議論する。 ② サンプルの確認 ③ 自分の意見や主張する内容の検討 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 記録に残す評価は行わない。 ねらいに即して生徒の活動を見届け、指導に活かす。 </div>			

2	<ul style="list-style-type: none"> ■ ものについてくわしく説明する言い方を理解する。 ① Scenes1~2の導入(教科書p.76, 77)とアクティビティ ■ SDGsの目標13に関する課題を理解し、参考になる情報を調べる。 ② 目標13の課題を書き出す ③ 課題に対し参考になる情報を調べる 	記録に残す評価は行わない。ねらいに即して生徒の活動を見届け、指導に活かす。			
3 本時	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自らが読んで得た情報を、他者に理解してもらえるよう自分の言葉で説明できる。 ① 教科書pp.78~80を基にリライトされ、分割された英文を読む ② 読んで得た情報を、他者に理解してもらえるよう、自分の言葉で伝える ③ 分割された英文を正しい順序に並び替え、情報を統合する ④ 統合した情報と内容について書き出し、わかりやすくまとめる 				
4	<ul style="list-style-type: none"> ■ 正しい発音で教科書の本文を音読できる。 ① Think1の内容理解(教科書p.78) ■ 目標13の課題を共有して伝えあうことができるようになる。 ② 目標13の課題を共有する ③ 自分が取り上げたい課題について深掘りする 				
5	<ul style="list-style-type: none"> ■ 英文の意味を理解しながら本文を音読できる。 ① Think2の内容理解(教科書p.79) ■ 目標13の課題の解決策を調べて伝えあうことができるようになる。 ② 目標13の課題の解決策を調べる ③ 解決策について伝え、意見をもらう 				
6	<ul style="list-style-type: none"> ■ 話し手の想いが伝わるよう本文を音読できる。 ① Think3の内容理解(教科書p.80) ■ 自分が考える目標13の課題と解決策をメモにまとめる。 ② キーワードのみメモにする 				
7	<ul style="list-style-type: none"> ■ 積極的にグループディスカッションに貢献できる。 ① グループ内で目標13についてディスカッションを行う ② 自分のアイディアとグループとして出したアイディアを統合する ③ 教員もフィードバックをする 				
8	<ul style="list-style-type: none"> ■ 積極的に他のグループのメンバーとディスカッションできる。 ① 自分および自分のグループの提案を伝えたり、他グループの提案を聞いたりする ② 最初のグループに戻り、他グループで伝えあった内容を共有する。 ③ 新たな視点で得たこと、気づきなどを振り返る 				
9	<ul style="list-style-type: none"> ■ 前回と異なるメンバーとディスカッションできる。 ① 最終的なパフォーマンステストを行う ② 自分および自分のグループの提案を伝えたり、他グループの提案を聞いたりする ② SDGs視点から、自分たちは日本に何ができるか、すべきか決める 	○	○	○	

6. 本時の学習

(1) 本時のねらい

- ・自らが読んで得た情報を、他者に理解してもらえるよう自分の言葉で説明できる。

(2) 学習形態の工夫

リーディング活動の際に、4人グループを作り、教科書本文を同内容でよりコンパクトに書き換えた文章を4つのパートに分け、各自が1つの担当となる。4つの文章それぞれに難易度差を示すことで、生徒は自分の習熟度に合わせた英文を選んで読むことに挑戦することができる。自分が読んで理解した情報を他社に伝えることがタスク達成に不可欠であるため、自分「が」読んで理解した情報に価値があり、それは自分自身の必要性や価値を見出すこと、結果として自己肯定感の向上につながると考えた。

(3) 教具

教科書、生徒用タブレット、ワークシート

(4) 展開

過程(時間)	活動内容	指導の工夫 (・) 評価 (○)
導入 (5分)	1. Greetings and Warm-up ・ 1minute speech “What sea animals do you like?”	・ 既習事項の言語材料が自然と使われる状況を設定する。
展開 (35分)	2. ジグソーリーディング導入 ・ 英語による概要説明を聞く。 ・ 自分が担当する英文を確認する。 ・ 担当する英文を Teams で読む。 ・ 伝えるべき内容やキーワードをメモに残す。 ・ 自分が読んで理解した内容を班員に伝える。 ・ 班員が読んで理解した内容について聞く。 ・ お互いにメモを取りながら、英語で情報を交換する。 3. ジグソーリーディング展開 ・ 再度英文を読み、内容を確認する。 ・ エキスパートで集まり、情報確認を行う。 ・ 自分が担当する英文について再考する。 ・ 班内で協力して、バラバラにされた英文を正しい順序に並び替える。 ・ それぞれのグループが理解した内容を参観者へ伝える。 ・ 分割する前の英文を読んで、自分たちが理解した内容と比較する。	・ 何も持たずに英文を読みに行くことを確認。 ・ 英文を暗記して伝えるのではなく、自分の言葉で伝えるようにする。 ・ 自分が伝えるべき内容を再確認するための時間であることを強調する。 ・ 授業参観者へ自分たちが理解した内容を即興で伝える。
まとめ (5分)	6. 本時の振り返り ・ 読んで理解した内容の確認 ・ forms に学んだことを記入する。 ・ Greetings	

(差し込み所属学校名)

(差し込み氏名) 様

全国英語教育研究大会静岡大会 2026

実行委員長 山 崎 裕 子

(静岡県立浜名高等学校長)

副実行委員長 佐 藤 一 朗

(静岡県教育研究会英語研究部長)

(藤枝市立大洲中学校長)

全英連静岡大会 2026 紀要への寄稿について(お願い)

寒冷の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。本大会への御理解と御協力を賜り、感謝いたします。

さて、本大会開催後、2027 年3月ごろに大会紀要を発行する計画でおります。つきましては、より正確に授業実演の内容を記録したく、発表者のみなさまに当日の授業発表内容を基に、紀要の御執筆をお願いできればと存じます。御多忙の折恐縮ではございますが、下記のとおり原稿を御提供くださいますよう、お願い申し上げます。

記

1 大会紀要について(見込み)

仕様: A5版、250 ページ程度、1冊につき 1,700 円(見込み)

目的: 希望する参加者や一般への販売及び大会記録

2 原稿について(体裁)

- ・授業実演について4ページ(概略と指導案)
- ・Microsoft Word 論文形式
- ・A4版縦(で用意いただいたものを、A5版に縮小印刷します)
- ・文字、写真、表等すべて 70%に縮小することを御承知おきください。
- ・データで提出(Word 及び PDF)
- ・余白は上下左右端各 25mm
- 横書き 二段組も可能
- MS 明朝体 12 ポイント
- (埼玉大会では 10.5 ポイントの部分もあるので適宜変更してください)
- ・添付の 2024 年埼玉大会原稿とひな型の Word データを参考になさってください。

3 原稿について(内容)

基本的な構成について

・1ページ目「授業実演について」

- ①学校紹介
- ②研究テーマの設定の理由
- ③研究の内容
- ④授業実演について

・2～4ページ目「学習指導案」

- ①単元名
- ②単元の目標
- ③単元設定の理由
- ④単元の評価基準
- ⑤指導と評価の計画
- ⑥本時案

注意事項：著作権に関わるデータは原則掲載しないようにお願いします。

~~4 提出期限~~

~~2026年10月29日(木)~~

~~5 提出方法~~

~~以下のメールアドレスに原稿(WordとPDF)を添付して送信してください。~~
~~浜松市立高等学校 刑部 雅子~~
~~masako01.gyobu@hamamatsu-h.ed.jp~~

6 その他

- ・提出後に変更を御希望の場合は、担当まで御相談ください。
- ・発表当日の様子を写真撮影し、適宜掲載します。
- ・編纂の過程でいただいた原稿に体裁等に若干の変更を加える可能性がありますので、予め御了承ください。
- ・2026年12月ごろに写真も含めて関係部分の原稿を一度確認いただきたく存じます。
- ・御不明な点がございましたら、担当までお問合せ下さい。

担 当 刑 部 雅 子
(浜松市立高等学校教頭)
電 話 053-453-1105(代表)

[小学校の部 第 分科会]

【ひな型】

4 成果と課題

テーマ

発表者

指導助言者

司会者

記録者

会場責任者

参加者数

この部分は記録者で
整えますので空欄でも
構いません。

1 研究の目的

5 質疑応答

2 研究の内容

6 指導助言

3 授業の実際

[小学校の部 第1分科会]



テーマ 目的・場面・状況に着目した
言語活動の実践

～技能統合型言語活動を通した

小中接続を見据えた指導を目指して～

発表者 飯能市立加治小学校

永島 小夜香

指導助諸 文教大学国際学部

阿野 幸一

司会者 入間市立東金子中学校

水谷 大輔

記録者 鳩山町立鳩山中学校

鈴木 伸幸

所沢市立東所沢小学校

本橋 晴香

会場責任者 入間市立金子中学校

阿部 亮介

参加者数 47 名

1 研究の目的

学習指導要領では「外国語科における見方・考え方」として「コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築する力」が求められている。また「英語の授業において育成すべき資質・能力」として、「英語の知識があり、英語で意見が言えるだけでは不十分であり、

課題解決に向けて他人と協働したり、何か新しいものを創り出したりして解決する力」が必要とされている。

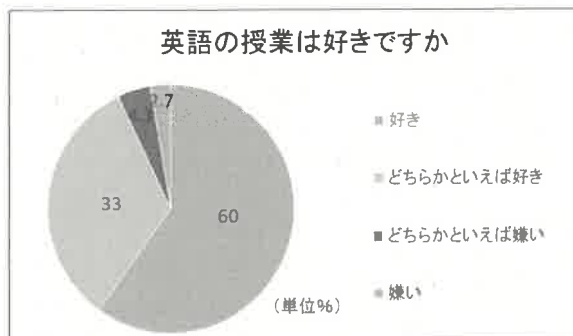
本研究では「実際に起こりうる場面」を設定し、「目的・場面・状況を意識した言語活動」を通して「相手意識を持ち、主体的・対話的で深い学び」の醸成につながる授業実践を行った。また、小中接続を円滑に行うという観点から、小学校段階における従来の「聞くこと」「話すこと」に重点をおいた言語活動に加え、技能統合型の言語活動を取り入れることにより、「読むこと」「書くこと」を含む各技能を総合的に伸ばしていくことが可能になると考えた。技能統合型言語活動においては「バックワード・デザインに基づくゴール設定」を行うことにより、各技能をどのような形で行うかを可視化し、より実践的なコミュニケーション能力の育成につながれると考えた。

2 研究の内容

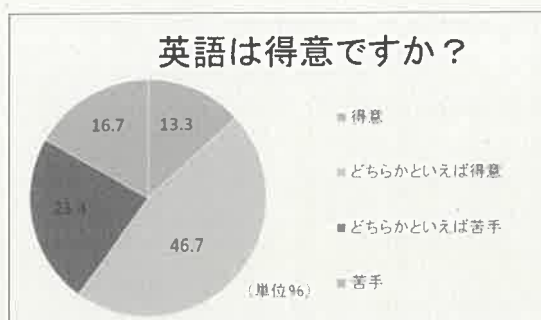
研究に先立ち、英語の学習に関する児童の現状や実態を把握するためにアンケート調査を行った。このアンケート調査を通して、英語学習において、児童にとって強化すべき技能を可視化することができた。

(1) アンケート結果の分析

<6年生児童92名>



(図1 児童のアンケート結果①)

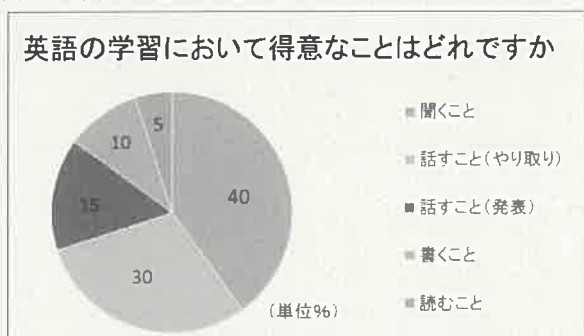


(図2 児童のアンケート結果②)

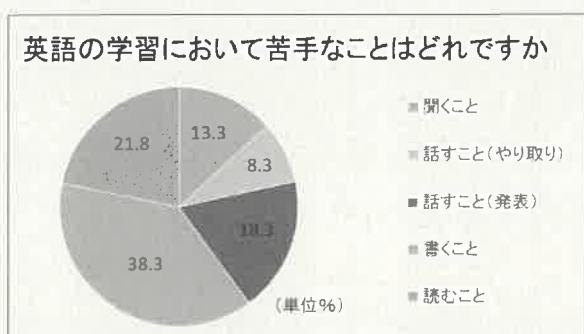
「英語が好き・どちらかといえば好き」と答えた児童は9割を超えたものの、「英語が得意・どちらかといえば得意」と答えた児童は7割程度にとどまった。

(図1・図2)

さらに、実態をより詳しく分析するために行った、技能ごとの得意・不得意に関する調査結果は以下のとおりとなった。

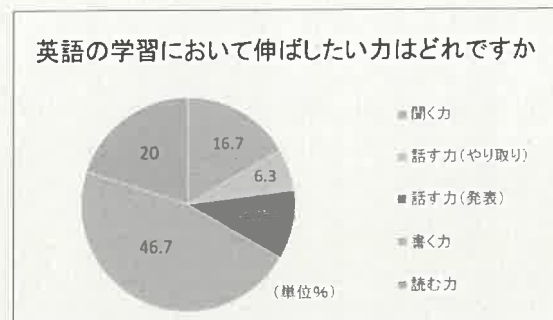


(図3 児童のアンケート結果③)



(図4 児童のアンケート結果④)

従来の授業では「聞くこと」と「話すこと(やり取り・発表)」に多くの時間をかけてきたこともあり、アンケート結果においても、その実態がより明確になった。(図3・図4)



(図5 児童のアンケート結果⑤)

苦手な技能として「書く力」「読む力」と答えた児童が多くいる一方で、伸ばしたい力についても「書く力」「読む力」を挙げた児童が多かった。これは、中学校での学習に向けて、より深く英語に触れていきたいと考えたり、英検受験に対する意欲を持つ児童も増えていたりすることが考えられる。(図5)

アンケート結果の分析を通して、授業における4技能(5領域)をバランスよく扱っていくことの重要性を再認識するとともに、言語活動のあり方を見直すきっかけとなった。この点をふまえ、本研究では、以下の2つの視点から言語活動のあり方を見直すこととした。

(2) 言語活動におけるより現実的な

場面設定

言語活動を行う上での「核」にあたる「目的・場面・状況」をより明確にするために、次のような設計図を用いることとした。

Idea Pad... 充実した言語活動にするための設計図

<目的> → 言語活動を行う目的、および最終的なゴール

Kin先生や家族に喜んでもらえるように、飯能や加治小学校を紹介するためのビデオレターをつくります。

<場面> → どこで行われているか。(具体的な「きっかけ」や「できごと」)
4月から一人で日本に働くKin先生の元に、フィリピンに住む家族からメールが届きました。

<状況> → 「きっかけ」や「できごと」に付随する状況

Kin先生の家族は、夏休みに日本に来る予定があり、Kin先生は家族と一緒に飯能めぐりをするようになりました。

<相手意識> → 対象は？ 相手にどんなことを伝えたい？

Kin先生や家族に飯能めぐりを楽しんでもらえるように、飯能のおすすめや魅力、そして加治小のことを伝えましょう。

今回はより現実的な場面設定として「ALT の家族から届いたメール」をきっかけにして言語活動を展開した。

(3) バックワード・デザインに基づく 技能統合型言語活動

作成した設計図をもとに、言語活動のゴールを明確にすることで、授業における活動の手順：どのような活動が必要であるか（聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと）」を児童に示すことができるのではないかという考えに至った。さらに、バックワード・デザインの設定することで、どの技能同士を統合させて活動を展開させたら良いかを明確にすることができた。

<ゴール>

「ALT と家族が、夏休みの飯能めぐりを楽しめるように、＜飯能のおすすめ＞や＜加治小学校＞を紹介するためのビデオレターを作成しよう」

<導入>

※ 聞くこと・読むことの統合

・ALT が家族から受け取った手紙を読み
児童は「聞く」(音声によるインプット)

→ 聞くこと

・ALT 宛ての手紙文を児童が「読む」
(英文を通しての内容理解)

→ 読むこと

<展開>

※ 話すこと・書くことの統合

・自分たちの住む地域について、ALT に「知りたいことや家族の要望」を尋ねる
→ 話すこと[やり取り]

・やり取りを経て、伝えたいことや情報を英語でまとめる → 書くこと

・書いた情報を元にビデオレターにて伝える → 話すこと[発表]

3 授業の実際

・実施対象：小学校 6 年生

・実施内容：1 学期の総括として ALT の家族から届いたメールを元に「自分たちの地域のことを ALT や家族に伝えること」を目標に言語活動を行った。

<活動の流れ>



Mission Target

<今回の活動>

*Kin先生と家族が、
夏休みの飯能めぐりを楽しめるように
飯能のおすすめや加治小学校を
紹介するためのビデオレターを
4人1組で作成します

<ビデオレター作成までのプロセス>

- ① Listening/Readingで状況整理
- ② Small TalkでALTとのやりとり
- ③ タブレットを利用してスクリプトの作成
→ 添削 → 原稿完成
- ④ ALTによる音声録音
→ 個人・グループ練習 → 最終チェック
- ⑤ ビデオレター撮影 → タブレット端末の活用

<授業内で使用したメール本文>

Dear Kin,

It is very hot here in the Philippines, it's about 30-35°C. How's the weather there in Japan?

Thank you for letting me know that you are enjoying your job in Hanno.

Can you tell me more about Hanno and your school?

What are the places to visit when we go there this summer?

Love,

Your Family

今回の活動の軸にあたる「目的・場面・状況」を明確にする上で、一番重要となったのが導入で用いた「ALT の家族からのメール文」である。このメール文により、児童は「相手意識」をより深めることができた。

また、このメールを「聞くこと」「読むこと」を通して、活動に必要な情報を整理することにもつながった。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・「ビデオレターを届ける相手がいること」により、児童一人一人が「自分事」としてとらえ、活動することができた。
- ・ビデオレターでのやり取りを通して、本物のコミュニケーションの機会を得ることができ、「伝わった!」「できた!」「相手に喜んでもらえた!」という達成感を児童に味わわせる体験できた。
- ・複数の技能を統合させて活動を行うことにより、児童自身が自分の得意な技能を用いて理解を深めることができた。

(2) 課題

- ・ 今後はオンラインの利点を生かし、海外の学校や同年代の児童との関わりが持てるような活動にもチャレンジしていきたい。
- ・「読むこと」の活動に関しては、背景知識のある内容や十分に input された言語材料でないと、内容理解が難しい。
- ・「話すこと（発表）」に関しては、定型文（フレーム）に頼ってしまう部分が多い。学年の実態に合わせ、徐々に「児童が本当に伝えたいことや気持ち」をスピーチの中に込められるようにしたい。

5 質疑応答

石井 利明（吉川市立中曽根小学校）

Q: 英語という communication tool を用いて小学生に英語でのやりとりの楽しさを味わわせるための演出や工夫をどのようにしているか教えていただきたい。

A: 日常の授業では、ALT 以外の外国人との交流ややり取りが難しい。そのような中で、二校兼務の長所を生かし、双方の学校紹介の動画を撮影したり、行事の紹介をしたりなどの工夫をしている。

指導助言 阿野 幸一（文教大学）

会話の中で唐突に “What color do you like?” という質問をすることはあまりない。しかし、「誕生日はいつ?」というやり取りの後で、（その相手にプレゼントを贈ろうと考えた…）という状況下であれば “What color do you like?” と質問することで、会話の必然性が生まれてくる。このように「やり取り」を行う中では、必然性を意識して行うことが重要で、会話の楽しさや自然な会話の流れをつくることが可能になる。

加賀田 哲也（大阪教育大学）

Q: Small Talk をする際、スキーマ形成に母語（日本語）を使用することについてどう考えるか。

A: 小学校段階では、伝えたいことのすべてを英語でやり取りするのは難しい。しかし、なるべく日本語を介さずにコミュニケーションできるようにしたいという視点から、授業における Small Talk の場面では Fillers を取り入れ、内容を深めたり整理したりするように心がけている。

指導助言 阿野 幸一（文教大学）

Small Talk は、あくまで雑談なのでその時に児童が言いたいことを自由に表現することが大切。あくまでも思考を整理するために日本語で考えることはあっても良い。ただ「日本語で考えたことを英語に直す」というプロセスになってしまうと、児童に負担がかかるので、それはなるべく避けた方が良い。

Q: 語順を意識した指導はどのように行っているか。

A: 授業では、チャンツやリズムトレーニング、パターンプラクティスなど、音声

を用いて英語の構造に関する理解(input)を深められるよう工夫している。

指導助言 阿野 幸一(文教大学)

英語も日本語でも「文構造を知る」という点で学習をしていることを考えると「主語」や「述語」という言葉は使っても良いのではないか。この点をふまえると、今後はさらに国語の授業と連携していくことが重要になってくるのでは。

松本 匡翼(静岡市立竜爪中学校)

Q: 校種を越えた授業について。

小中連携、中高連携、地域連携そして国を越えた授業連携を考えていく上で、大切にしたいことはどのようなことか。

A: 小中連携や地域連携に関しては、タブレット端末を用いて、動画による学校紹介を行ったり、各学校の行事を動画でレポートを行ったりなどの活動している。国を超えた活動については、これからの課題である。

指導助言 阿野 幸一(文教大学)

英語学習は、長い時間をかけて学ぶことで初めて定着に結びつく。具体的には、高等学校で学ぶ文法の8割は、中学校で学習したことであり、中学校で学ぶ表現の半分は小学校で学習したことである。小学校段階ではわからなかったことが、中学校で学んでわかるようになったり、中学校で理解できなかったことが、高等学校で理解できるようになったりすることが多々ある。こうした点をふまえて「あ！そういうことか！」と学びの重なる部分を大切に「重ね塗り」をしていく意識で授業を行うことが重要である。

音田 千恵美(愛媛県 中予教育事務所)

Q: 今回の実践では、言語活動をグループ

で行っていたが「話すこと(発表)」に関する評価はどのように行ったのか。

A: 今回はグループ発表がメインであったので、グループ全体に関わる評価を主に行った。そのため個々に関する評価については、＜個人内評価＞とした。従来の個々で行うスピーチ活動との比較において「どれくらいの伸びがあったのか」を見取ることを中心に行った。(→記録に残さない評価)

通常、個人の具体的な技能に関わる評価については、主に学期ごとに行っている「既習事項を用いたパフォーマンステスト」で見取るようにしている。(→記録に残す評価)

指導助言 阿野 幸一(文教大学)

スポーツの場面において、シングルスでは個人評価は明確に行えるが、ダブルスやチームでの評価はどのように行うだろうか。この視点と同様に、グループ活動に関する評価を行うと良いのではないか。具体的には「この児童は、この活動において、このように貢献をしていた。グループスピーチにおいてこの部分が非常に良かった。」などのような、プラス部分を評価していく…と評価しやすくなっていくと考えられる。

6 指導助言

○ 目的・場面・状況に関して考える際の「場面」と「状況」はどのように違うのか。

「場面」については(いつのことか、今、どこにいるのか、この会話はどこで行われているのか)という視点。「状況」については(なぜ、ここにいるのか？何に困っているのか？知らせたい。知りたい)という視点の違いがある。

今回の実践における具体的な「目的・場面・状況」をまとめると以下のようになる。

「場面」Kin先生の家族が飯能に来る
「状況」飯能で楽しめることを知りたい、
おいしいものを食べたい
「目的」Kin先生と家族に喜んでもらう

今回の実践では、「状況の設定」を明確にした上で、ビデオレターを作成することが「相手意識」を持たせることに深くつながった。さらに相手から「返事が届いた」ということにより、児童にとっての英語学習へのモチベーション向上につながる良い実践の一つとなった。

○「書くこと・話すこと(output)」と「聞くこと・読むこと(input)」との関連について

書く力をつけるために「目的なくドリルのように繰り返し、量をたくさん書かせる」ということは避けるべきである。言語活動を行うにあたり、どの場面だったら「書くこと」「話すこと」を入れられるのかを想定しておくことが特に重要である。その際も、ただ単に書く量を増やしたり、新しい単語やよく理解できていない文章をひたすら書いたりするのでなく、「音で聞いたものを文字で表現するならこれかな…」など、「すでに音として聞いたものから文字を推察し、「書くこと」につなげていく」という発想が重要である。

○＜アンケート結果考察①＞

「好き」と「得意」の間に大きな差が見られることについて

小学校段階において(楽しい！好き！)という段階を経て、中学校段階へ進んだ

ときに(もっと英語を楽しみたい！伝えたい！できるようになりたい！)という思いにつながっていくことを考えると、現時点ではまだ「得意！」と言える児童が少ないのは自然なことなのではないか。(好きだからもっと得意になりたい！)と考える児童が多くいることが、この結果に結びついていると考えられる。

○＜アンケート結果考察②＞

伸ばしたい力が「書くこと」「読むこと」と答えている児童が多い点についてこれまでの授業で「聞くこと」や「話すこと」にたくさんふれてきているからこそ、(そろそろ読みたい、書きたい)という意欲がついてきていると考えられる。この意欲が、中学校での学びに接続していくことにつながると考えられる。ただ、この結果を受け「書く活動」や「読む活動」をやみくもに増やしていく、ということではなく「たくさん音に触れて、それが文字に移行していく」という原則に基づき、これまで通り「聞くこと」「話すこと」の活動をより充実させていくことが非常に大切である。

○表面的なやり取りではなく、より内容を深めていくことについて

例えば、昨日のできごとをやり取りする時には、ただ単に「何をしたかを伝えること」が大事なのではなく、その背景にある「本当に伝えたいこと(これが本当に面白かったんだ！などの感情)」に着目してやり取りできるような仕掛けづくりをしていくことが大切である。これが言語活動における「目的・場面・状況」の設定づくりにつながっていると考えることができる。

[中学校の部 第 分科会]

【ひな型】

4 成果と課題

テーマ

発表者

指導助言者

司会者

記録者

会場責任者

参加者数

この部分は記録者で
整えますので空欄でも
構いません。

1 研究の目的

5 質疑応答

2 研究の内容

6 指導助言

3 授業の実際

[中学校の部 第5分科会]



テーマ ライティング指導を通して、英語で自己表現するための力を育む指導法～マッピングを活用したプレライティングの効果と課題～

発表者 加須市立昭和中学校
五十嵐 渚紗

指導助言者 埼玉大学 奥住 桂

司会者 行田市立埼玉中学校
清水 政之

記録者 行田市立西中学校
福田 優果

会場責任者 加須市立加須北中学校
奥澤 幸夫

参加者数 44名

1 研究の目的

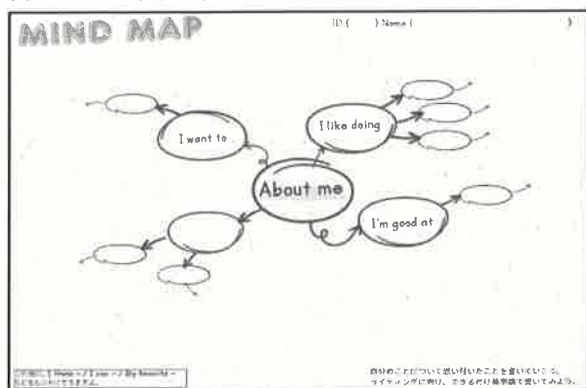
令和5年度全国学力・学習状況調査では、「日常的な話題について事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くこと」に課題があることが明らかとなった。そのため、テーマについて事実や考えを整理し、文章構成を判断して、文と文のつながりなどに注意しながらまとまりのある文章を書く指導の充実が求められている。しかしながら、自分の考えや思いがあったとしても、「何を

書けばいいのか」、「どのように書けばいいのか」分からず、ライティングに苦手意識をもつ生徒が少なくない。大井他(2008)は、「書くこと」は「考えること」と直結していると述べている。誰に、どのような表現を使い、何を伝えるかを深く考えていくことは、今後生徒に必要な思考力、判断力、表現力を育むことに繋がっていくと考える。これらの課題に対して本研究では、生徒が書いた作品(プロダクト)よりも過程(プロセス)に重きを置くプロセス・アプローチの手法を取り入れ、ライティング前の準備であるプレライティング活動に焦点を当てる。プレライティング活動にはアイデアを広げたり、思考や情報を視覚的に整理したりする思考ツールの一つであるマッピングを活用し、その効果と課題を検証する。

2 研究の内容

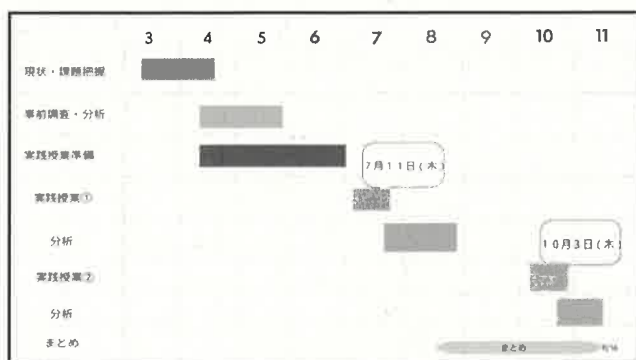
公立中学生2年生17名(少人数学習)を対象に行った。目的・場面・状況を「ALTの先生に自分のことをよく知ってもらうために、好きなことなどをまとまりのある文で多く伝える」と設定した。マッピングを効果的に活用するために、マッピング後すぐにライティングを行うのではなく、以下の実践授業①を行った。(1)「話すこと」と「聞くこと」を関連付けてインプットとアウトプットを繰り返して思考を深める。テーマについてのSmall Talkを行うなどインプット→アウトプット→インプットを繰り返すことで音から文字へと表現できることを少しずつ増やせるように工夫した。(2)友達フィードバックを通してさらにアイデアを広げる。個人でマッピングを行った後、

マッピングを見ながら即興で自己紹介を行った。内容面や言語面でアドバイスを



るものの、それだけではまとまりのある文を作ることはできないという結論に至った。そこで、「マッピングで話題を広げる」+「話題を絞る、整理する」ということがそろってはじめてマッピングの効果が見えてくる、また、まとまりのある文を作ることに繋がるのではないかと、いう仮説を立て、広げた話題を生徒がどのように絞り、整理して再構築するのが効果的かを検証するために実践授業②を行った。これらの継続的な研究を行うことで、ライティングにおけるマッピングの効果や課題だけでなく、「まとまりのある文」とはどのようなものであるかが見えてきた。

3 授業の実践 研究スケジュール



① R6. 7. 11 実践授業①「話題を広げる」

(1) Small Talk

(2) 即興で自己紹介

(3) 自己紹介文をマッピング

(4) マッピングを活用してペアで自己紹介

をし、アドバイスをし合う。
マッピングシートを使って伝えたい内容を広げていった。

(5) 自己紹介文を作成

(5) で生徒が書いた英文を「まとまりのある文」という観点で分析、また生徒にアンケートや個別インタビューを行うことで更なる課題が見えてきた。例えば、一見すると英文の量が多いが、同じような意味のことを繰り返し書いてある、話題のまとまりがあっても詳しく述べられていないので読み手に分かりづらいなどである。

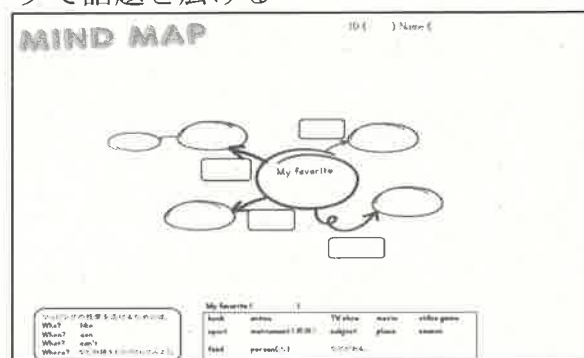
これらの課題を解決するために、新たな実践授業を行った。

R6. 10. 3 実践授業②

「話題を絞る、整理する」

(1) Small Talk

(2) 自分の好きなことについてマッピングで話題を広げる



今回は話題を広げるためだけに活用したが、見直しをする中で新たに英文を増やしたい時などにもう一度マッピングに戻って話題を絞ったり、整理したりするために活用する生徒が多かった。

(3) ハンバーガーライティングで内容の整理をする



英語のエッセイや作文を書く際の構造を簡単に理解するための比喻。ハンバーガーのように、各部分がしっかりと重なり合って構成されているイメージを伝えることができる。

その後、前回と同様に生徒が書いた英文を「まとまりのある文」という観点で分析するとともに、アンケートと個別インタビューを行った。

4 成果と課題

(1) 成果

①マッピングを行うことで表現する内容が増えたと思うか」という質問に全員がそう思うと回答した。最初から英文を作るのではなく、キーワードで話題を広げていくことは、多くの生徒にとって取り組みやすく、英語で表現することへの意欲にも繋がった。また、マッピングをすることで想像していなかった「単語」との出会いがさらに話題を広げるきっかけとなった。

今後も帯活動である Small Talk をする前の思考整理ツールとしてなど、普段からマッピングを活用していきたい。授業の中で計画的・継続的に活用し、英語の力だけに留まらず、生徒が自分の考えや思いを表現するための思考ツールを提示していきたい。

②広げた話題を絞る、整理する際に用い

たハンバーガーライティングについては、簡単な短文を作ることができるので、一つ一つの文を俯瞰して見られ、その後の構成を考えやすくなったという意見が多くあった。

③マッピング+ハンバーガーライティングで読み手に分かりやすく、まとまりのある文に近づくことができるだけでなく、生徒が自身の変化を感じられるようになった。個別インタビューでは、「マッピングで話題を広げた後に、自分の文を見つけて、新たに文を加えたり、順番を変えたり、表現を変えたりすることは決して簡単なことではないけれど、それでも、明らかに文章が分かりやすくなるのを実感できたので、苦ではなかった。」という意見を多く聞くことができた。これらの取組を継続することで、「まとまりのある文」を書くことを定着させ、今後はパラグラフライティングを目指していきたい。

生徒の考える「まとまりのある文」

- ☐ 話の内容がつながっている、まとまっている。
- ☐ 急に話題が変わらない文
- ☐ 一つの対象を詳しく説明すること
- ☐ 一つのことを数行の文でまとめる
- ☐ 自分の好きなことに対して色々な視点から見て話すこと
- ☐ 簡潔にまとめること
- ☐ 話の流れの構成をよく考え自然な文章にし、聞いていてわかりやすい文
- ☐ トピックに対して一貫性がある文
- ☐ 話題を急に変えたりしないで流れに沿っている文
- ☐ つなぎ言葉が使われている
- ☐ 中心となる話の内容を決め、その話から色々な話に広げていくこと
- ☐ 前後の流れがある話を書くこと
- ☐ 全体としてみたときに、話の筋が通っている文
- ☐ 一つのことをより深い内容になるようにそのことについて詳しく書く
- ☐ 相手の「理解しやすい」順番で話す

生徒は、自分が伝えたい話題を広げ、絞り、整理する活動を通して、抽象的であった「まとまりのある文」について理解を深めることができた。

④自己紹介や自分の好きなものについてライティングした後、パフォーマンステストを行った。「ALT に自分の好きなものについてまとめた文で伝える」ことを目標とした。「どうしたら ALT に自分の伝えたいことが伝わるか」と考え、新たな文を付け加えたり、自分は分かっている相手も分からないであろうことに

ついて説明を加えたりするなど、生徒自身が考えて文章を再構成する姿が多く見られた。「書いたもの」をどう活用し「聞くこと」「読むこと」「話すこと」と関連付けていくかが今後の課題であると考え、今後も実践を重ねていきたい。

(2) 課題

- ①マッピングは、私たちの思考のプロセスを「見える化」するものであり、結果を示すものではない。生徒も教師も、マッピングをすることが目標とならないように心がけたい。
- ②インタビューから、マッピングをすることが英作文を作る上で大きな助けになる生徒がいる一方で、マッピングシートなどがなくても、脳内でマッピングすることができる生徒もいることが分かった。今後は、マッピングを「話題を広げたり、整理したりするためのオプション」として生徒自身が活動内容によって使い分けられるようにしていきたい。
- ③今回の研究を通して、生徒は「一貫性のある文」を書けるようになってきた。しかしながら「結束性のある文」については課題が残っているので、目の前の生徒をしっかりと見て、今後も書く力を身に付けさせていきたい。

「まとまりのある文」をつくれる生徒を目指して

My favorite thing is watching anime.	はじめに
I usually watch Japanese anime.	ものごと
My favorite anime is Doraemon.	
I usually watch it with my family on Saturday.	
Doraemon is very famous in Japan.	Doraemon
He is a cat-shaped robot.	
He lives in Nobita's house.	
Nobita is Doraemon's friend.	Nobita
He is not good at studying and playing sports.	友達(たとも)のこと
Doraemon has a magic pocket.	
So, he always helps Nobita with it.	
When you have time, please watch it.	最後

今後の目標は、生徒が一つのキーワードから一貫性と結束性のある文を作れるようになることである。

5 質疑応答

新井 正秀

(東京都文京区立音羽中学校)

Q:ライティングのチェックはどのようにしているのか。

A:正直申し上げて、ライティングのチェックは大変である。授業中に見切れない部分もある。しかしながら、生徒の英文を見てその変化を把握することを大切にしたいと思っている。「ここだけ直した方がいい」というポイントに絞ったやり方をしている。また、生徒が共通して間違える部分について、授業で共有するようにしている。

Q:「まとまりのある文」に関して、量と正確性をどのように評価しているのか。

A:ライティングに関するルーブリックをまだ作成できていない。この研究を通して生徒がライティングをすることに慣れてきて、「まとまりのある文」を作るスタートラインに立てたという状況である。今後、ライティングのルーブリックを作成し、評価についても実践していきたいと考えている。

三輪 政継

(東京都足立区立谷中中学校)

Q:テーマを絞り、生徒とともに生徒の姿から研究を継続されたことに敬意を表します。「レessonプラン」を見ると、単元は9時間扱いとなっている。これは「書くこと」だけに特化した単元なのか。通常の授業の中で帯活動のように取り組んだのか、位置付けはどのようにしたのか。

A:「対話をしたらライティングをする」ことを帯活動として行っている。1時間全てライティングをしている訳では

ない。今回「書くこと」に特化したレッスンプラン計画を試みた。

6 指導助言

埼玉大学 准教授 奥住 桂

(1) 「よい文章」とは何か

①「自分事」「お気持ち」への偏り

英語の授業において「楽しかったこと」など肯定的な文を書かせることが多く見られるが、時には悲しかったことや悔しかったことも表現できるとよい。そのような観点からも道徳や学校行事での感想などで生徒にどんなことを書かせるのかをもう一度振り返る必要があるだろう。

②正確さへの偏り

第二言語においては、文法的な正確さばかりが評価されていることを教師がしっかり受け止める必要がある。

②「話しことば」と「書きことば」の混淆

本来はそれぞれの書き方が異なるものだが、SNS 等の普及により、話しことばと書きことばの混淆が起こっている。生徒に英語で書く力を身に付けさせる際はこのような状況を把握し、教師が生徒の書いたものを見続けることが大切である。

(2) 結束性と一貫性

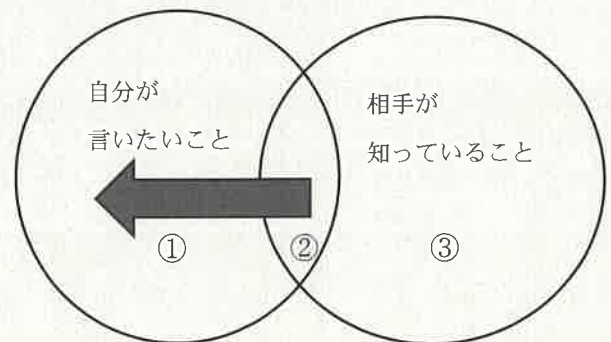
結束性 (Cohesion) : つながりは、「語と語、文と文の情報を結ぶつける言語的要素」(Crossley & McNamara, 2016) である。これは、指示・代用・省略・接続などの文脈的結束性と、繰り返し・類義語・上位語などの語彙的結束性がある。結束性(つながり)があることがいい文につながる訳ではない(Crowhurst, 1987)。過剰使用は逆に英文の質を下げってしまうことに注意をする必要がある (Evola, Mamer, & Lentz, 1980)。

一貫性 (Coherence) : まとまりは、誰に対しても分かるような文を書くことである。語彙や文法知識は学年進行で向上するが、文章の一貫性はすべての学年に共通した課題である(山岡, 2014)。今回の研究は、一貫性に焦点を当てたものであったため、今後の実践で結束性を目指して欲しい。

(3) マッピングの役割とは何か

マッピングの役割は、アイデアの「拡散」より「整理・精選」である。

(4) その前に、その先に



出発点は②であるが、徐々に自分の領域である①に持っていける指導が望ましい。共感と驚異、既知から未知へと向かえる授業づくりを意識することが大切である。

書くことは考えることであり、「どう書くか」を考えることは、「どう話すか」や「どう読むか」に繋がるので、今後も「書くこと」を意識した授業を作っていくことに期待したい。

(差し込み所属学校名)

(差し込み氏名) 様

全国英語教育研究大会静岡大会 2026

実行委員長 山崎 裕子

(静岡県立浜名高等学校長)

副実行委員長 佐藤 一朗

(静岡県教育研究会英語研究部長)

(藤枝市立大洲中学校長)

全英連静岡大会 2026 紀要への寄稿について(お願い)

寒冷の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。本大会への御理解と御協力を賜り、感謝いたします。

さて、本大会開催後、2027 年3月ごろに大会紀要を発行する計画であります。

つきましては、より正確に御助言の内容を記録したく、指導助言担当のみなさまに当日の御講演内容を基にした紀要の御執筆をお願いできればと存じます。御多忙の折恐縮ではございますが、下記のとおり原稿を御提供くださいますよう、お願い申し上げます。

記

1 大会紀要について(見込み)

仕様: A5版、250 ページ程度、1冊につき 1,700 円(見込み)

目的: 希望する参加者や一般への販売及び大会記録

2 原稿について

- ・御担当分科会の指導助言内容について1ページ程度
- ・編集担当者が発表の様子の写真、発表内容や質疑応答をまとめ加えて編集します。
- ・A4版縦(で用意いただいたものを、A5版に縮小印刷します)
- ・文字、写真、表等すべて 70%に縮小することを御承知おきください。
- ・データで提出(Microsoft Word またはメール本文にベタ打ちで)

3 提出期限

2026 年 10 月 29 日(木)

4 提出方法

以下のメールアドレスに送信してください。

~~浜松市立高等学校 刑部 雅子~~

~~masako01.gyobu@hamamatsu-h.ed.jp~~

5 その他

- ・提出後に変更を御希望の場合は、担当まで御相談ください。
- ・編纂の過程でいただいた原稿に体裁等に若干の変更を加える可能性がありますので、予め御了承ください。
- ・2026 年 12 月ごろに写真も含めて関係部分の原稿を一度確認いただきたく存じます。
- ・御不明な点がございましたら、担当までお問合せください。

担 当 刑 部 雅 子
(浜松市立高等学校教頭)
電話 053-453-1105(代表)

令和 8 年度 研究部成果刊行物計画

研究部名 (英語) 研究部

タイトル	英語部だより
内 容 (目次)	<div>○表紙</div> <div>○目次</div> <div>○はじめに (部長より)</div> <div>○第 76 回全国教育研究大会 (全英連静岡大会) まとめ</div> <div>○活動報告書</div> <div>○第 78 回静岡県中学校英語弁論大会結果</div> <div>○高円宮杯第 78 回全日本中学英語弁論大会出場者及び指導者の感想</div> <div>○令和 8 年度静岡県教育研究会英語教育研究部役員一覧</div> <div>○令和 8 年度静岡県教育研究会英語教育研究部地域代表者一覧</div> <div>ページ数 (18) おおよその目安で結構です</div>
事務局への 提出予定	<div>○提出責任者 氏 名 (松塚 早希)</div> <div>学校名 (御前崎市牧之原市学校組合立御前崎中学校)</div> <div>○提出方法 PDFファイル ・ 印刷物</div> <div>○提出予定 1 2 月末 ・ 1 月末 ・ 2 月末</div> <div>※いずれかに○をつけてください。</div>
備 考	<div>今年度は全英連静岡大会があるため、静教研夏季大会は実施しません。そのため、例年と内容が異なっております。</div> <div>昨年度に引き続き、印刷物ではなくデジタル版のみとします。</div>

※提出方法については、PDF の場合は、静教研事務局へメールにて、印刷物の場合は、静教研事務局へ郵送または持参で、綴じ込みはしないようにお願いします。

静教研刊行物について

令和 8 年 2 月 1 6 日

編集主任 松塚 早希

静教研刊行物「英語部だより」「研究冊子」「静教研だより」について

- (1) 「英語部だより」については、夏季研究発表を見開き 1 ページ (A 4 版 2 ページ) にまとめたものを大会発表者である 3 地区それぞれの代表者に執筆を依頼する。

ただし、令和7年度は各地区の発表がないため、事務局が執筆を担当する。

→夏季大会担当地区に依頼。

- (2) 「研究冊子『ときめき かかわり 未来へつなぐ』」については、夏季研究発表の発表者のうち、下記ローテーションで○が付いている地区の発表者に執筆を依頼する。(令和 7 年度は事務局)

発表順は、夏季研究発表のローテーションに準じ、以下の通りとする。

英語部だよりと同じく、令和7年度は事務局が執筆を担当する。

→夏季大会担当地区に依頼。

- (3)

R 3			R 4			R 5		
沼津	富士 富士宮	志太	磐周	榛原	東豆	小笠	三島	静岡
○			○			○		

R 6			R 7		R 8		R 9	
賀茂	富士 富士宮	志太	事務局		事務局		湖西	
○							○	

○は研究冊子の執筆担当を表す。

※提出までの手順は以下の通りとする

担当：①執筆者 ②地区英語研究部責任者 ③地区 担当校長 ④地区編集委員 ⑤編集主任

- (1) 初稿・第 2 稿・(第 3 稿) : ① ↔ ② ↔ ③
 (2) 推敲後 : ① ↔ ② ↔ ④ ↔ ⑤
 (3) 最終稿 : ① → ② → ③ → ② → ① → ④ → ⑤

- (4) 令和 7 年度のローテーション

※敬称略

英語部だより 夏季研究大会での地区発表者による原稿 執筆 (毎年)	静教研研究冊子 「ときめき・かかわり・未来へつなぐ」 (毎年)
事務局 (小笠地区) : R8 全英連静岡大会の各地区のテーマ、 成果・課題の報告	事務局 (小笠地区) : R8 全英連静岡大会に向けて小笠地区で 研究してきたこと

12 月上旬締め切り

9 月上旬締め切り

令和8年度 (英語) 研究部 予算書 (案)

科 目		予 算 額	積 算 内 容
A 研究大会費	1 謝金	0	講師 15,000 円 × 13人 = 195,000 円
	2 旅費	170,000	※R8年度 夏季大会は開催されない
	3 借料・損料	0	会場借料
	4 資料費	0	東海北陸名古屋大会 (2名分) 40,000
	5 通信運搬費	0	振込手数料
	6 賃金	0	
	7 需用費	0	消耗品等
	小 計	0	
B 調査研究費	1 謝金	282,000	講師 15,000 円 × 13人 = 195,000 円 予備87,000
	2 旅費	170,000	講師 10,000 円 × 13人 = 130,000 円
	3 借料・損料	0	東海北陸名古屋大会 (2名分) 40,000
	4 資料費	20,000	会場借料
	5 通信運搬費	8,000	東海北陸名古屋大会 (2名分)
	6 賃金	0	振込手数料
	7 需用費	0	
	小 計	480,000	消耗品等
C 研究成果刊行費	1 旅費	0	※R8年度 英語部だよりはデータ化の予定
	2 借料・損料	0	
	3 資料費	0	
	4 通信運搬費	0	
	5 賃金	0	
	6 需用費	0	消耗品等
	小 計	0	
D 研究用図書購入費			
E A+B+C		480,000	
F 研究部内の会議費等		40,000	委員研修会費・通帳(研究部)手数料等
G 総 計		520,000	

様式7

令和7年度 英語 研究部 調査研究活動費 申請書(案)

調査研究活動名 (静岡県中学生英語弁論大会)

科 目		予 算 額	積 算 内 容
調 査 研 究 活 動 費	1 謝金	80,000	講 師 10,000 円× 8人 = 80,000
	2 旅費	26,000	講 師 2,000 円× 13 人 = 26,000
		20,000	高円宮杯全日本中学校英語弁論大会 引率旅費
	3 借料・損料	170,000	会場借料 (打合せ、当日会場、駐車場含む)
	4 資料費	0	
	5 通信運搬費	20,000	郵送料など
	6 賃金	0	
	7 需用費	130,000	消耗品等(賞状、トロフィー、マスキングテープ等)
	計	446,000	
総 計		446,000	

令和7年度 静岡県教育研究会英語教育研究部 役員 一覧

令和8年度の組織の提出をお願いします

令和8年度の組織の提出をお願いします							電話番号			
役職	職名	氏名	勤務校	〒	メールアドレス	個人/学校	ファックス			
部長	校長	佐藤 一朗	藤枝市立大洲中学校	426-0052	藤枝市弥左衛門500		054-635-2440			
					it.sato@teacher.fuijieda.ed.jp	個人	054-635-2852			
副部長	静東 静岡市 静西	校長	※ 大川 美紀	沼津市立門池中学校	410-0012	沼津市岡一色657-1		055-923-3900		
			※ 黒瀬 純孝	静岡市立豊田中学校	422-8027	静岡市駿河区豊田一丁目3番1号		054-285-8201		
			※ 山脇 直美	袋井市立三川小学校	437-0004	袋井市友永38番地		0538-48-6197		
					mitsukawa-s@orange.ocn.ne.jp	学校	0538-48-6199			
事務局	局長 局員	教諭	※ 井浪 貴斗	掛川市立桜が丘中学校	436-0224	掛川市富部716		0537-22-6278		
			※ 前川 恭佑	菊川市立菊川東中学校	439-0018	菊川市本所670		0537-35-2335		
					kiku-higashi@kzc.biglobe.ne.jp	学校	0537-35-2497			
幹事	東部	校長	望月 香織	富士市立吉原第三中学校	417-0847	富士市比奈2126番地		0545-34-0868		
			t00403098@fujicity.ed.jp		個人	0545-34-0869				
	中部	校長	服部 紀子	静岡市立美和小学校	421-2112	静岡市立美和小学校		054-296-0700		
			miwa-ep@shizuoka.ednet.jp	学校	054-296-1845					
	西部	※	木戸 脇佳代	湖西市立知波田小学校	431-0403	湖西市大知波1144		053-578-0034		
			chibatae@city.kosai-szo.ed.jp		053-578-3343					
	東部	※	横山 由香	長泉町立北中学校	411-0933	駿東郡長泉町納米里333-3		055-987-1820		
			kita-chu-2@po4.across.or.jp	学校	055-987-1821					
中部	教諭	小針 嘉幸	静岡市立両河内小中学校	424-0403	静岡市清水区和田島303		054-395-2321			
		ryougouchi-ej1@shizuoka.ednet.jp	学校	054-395-2322						
西部	※	鈴木 宏昌	湖西市立新居中学校	431-0301	湖西市新居町中之郷1181番地		053-594-0004			
		araijh@city.kosai-szo.ed.jp	学校	053-594-6984						
評議員	校長	研究部長の兼任								
	教諭	事務局長の兼任								
編集委員	主任		松塚 早希	学校組合立御前崎中学校	421-0533	牧之原市新庄800-1		0548-58-0223		
			onchu@city.omaezaki.shizuoka.jp		学校	0548-58-0313				
	静東 静岡市 静西	教諭	※ 加藤 亜紀奈	伊東市立南中学校	414-0045	伊東市玖須美元和田729-1		0557-37-2637		
			※ 小針 嘉幸	静岡市立両河内小中学校	424-0403	静岡市清水区和田島303		054-395-2321		
					ryougouchi-ej1@shizuoka.ednet.jp	学校	054-395-2322			
					※ 杉本 実季	吉田町立吉田中学校	421-0301	榛原郡吉田町住吉230		0548-32-0200
					yoshicyu@ck.tnc.ne.jp	学校	0548-32-0790			
会計	主任		酒井 真由美	菊川市立六郷小学校	439-0018	菊川市本所2200		0537-35-3147		
			kiku-rokugo@ktb.biglobe.ne.jp		学校	0537-35-3148				
	弁論		竹山 優子	御前崎市立浜岡北小学校	437-1605	御前崎市下朝比奈753		0537-86-3364		
			kita@ed.city.omaezaki.shizuoka.jp		学校	0537-86-6789				
	夏季	※	松村 夏実	伊豆の国市立長岡中学校	410-2211	伊豆の国市長岡1407-1		055-948-0238		
			nagaoka-chu@izunokuni.ed.jp		学校	055-948-5654				
	東部	※	北川 諒	沼津市立第一中学校	410-0806	沼津市丸子町692-1		055-962-1551		
t541902@nmz.ed.jp				個人	055-962-1541					
中部		渡邊 諭史	静岡市立大河内小中学校	421-2306	静岡市葵区平野1850-66		054-293-2004			
		ohkouchi-ejo@shizuoka.ednet.jp		学校	054-293-2108					
		※ 松下 孝行	磐田市立豊田中学校	438-0804	磐田市加茂243		0538-32-4637			
					toyoda-j@city-iwata.ed.jp	学校	0538-32-8392			
会計監査委員	静東 静岡市 静西	校長	※ 小林 浩之	長泉町立北中学校	411-0933	駿東郡長泉町納米里333-3		055-987-1820		
			kita-chu-2@po4.across.or.jp		学校	055-987-1821				
	※ 服部 紀子	静岡市立美和小学校	421-2112	静岡市立美和小学校		054-296-0700				
miwa-ep@shizuoka.ednet.jp		学校	054-296-1845							
					※ 横井 嘉治	吉田町立吉田中学校	421-0301	榛原郡吉田町住吉230		0548-32-0200
					yoshicyu-kocho@ck.tnc.ne.jp	学校	0548-32-0790			
夏季大会 実行委員長		校長	※ 宇津木 智如	三島市立東小学校	411-0852	三島市東町10-1		055-975-0110		
						higashisyo@city-mishima.ed.jp	学校	055-976-4194		
夏季大会事務局長		教諭	※ 原 美聡	三島市立錦田中学校	411-0801	三島市谷田1505		055-975-1093		
						nishikidachu@city-mishima.ed.jp	学校	055-976-4341		
全英連事務局		教諭	篠宮 広樹	藤枝市立大洲中学校	426-0052	藤枝市弥左衛門500		054-635-2440		
						osusu-jh@fuijieda-ed.jp	学校	054-635-2852		

令和8年度の組織の提出をお願いします

役職		職名	氏名	勤務校	学年	メールアドレス	個人/学校	電話番号 ファックス
部長		校長						
副部長	静東	校長						
	静岡市							
	静西							
事務局	局長							
	教諭							
	局員							
幹事	東部	校長						
	中部							
	西部							
	東部	教諭						
	中部							
	西部							
	西部							
評議員	校長	研究部長の兼任						
	教諭	事務局長の兼任						
編集委員	主任	教諭						
	静東							
	静岡市							
	静西							
会計	主任	教諭						
	弁論							
	夏季							
	東部							
	中部							
	西部							
会計監査委員	静東	校長						
	静岡市							
	静西							
夏季大会 実行委員長		校長						
夏季大会事務局長		教諭						
全英連事務局		教諭						

令和8年度の組織の提出をお願いします

令和8年度の組織の提出をお願いします										電話番号
		No.	地区	職名	氏名	〒	メールアドレス	個人/学校	ファックス	
静岡県	東部	1	賀茂	教頭	石井暁彦	下田市立白浜小学校	415-0012	下田市白浜1324-1 shirahama-s@shimoda-edu.net	学校	0558-22-0860 0558-22-0862
				教諭	米山寛人	松崎町立松崎小学校	410-3612	賀茂郡松崎町宮内332 matsusho@po3.across.or.jp	学校	0558-42-0049 0558-42-0166
		2	田方	校長	福井孝子	伊豆の国市立大仁北小学校	410-2317	伊豆の国市守木312 ookita-sk@izunokuni.ed.jp	個人	0558-76-3610 0558-76-4753
				教諭 ※	松村夏実	伊豆の国市立長岡中学校	410-2211	伊豆の国市長岡1407-1 nagaoka-chu@izunokuni.ed.jp	学校	055-948-0238 055-948-5654
		3	東豆	校長	山本吉則	熱海市立泉中学校	413-0001	熱海市泉 2 8 0 izumi-pr@i-younet.ne.jp	学校	0557-63-2811 0557-62-6870
				教諭 ※	加藤亜紀奈	伊東市立南中学校	414-0045	伊東市玖須美元和田 7 2 9 - 1 imjh@carrot.ocn.ne.jp	学校	0557-37-2637 0557-37-2842
		4	三島	校長 ※	宇津木智如	三島市立東小学校	411-0852	三島市東町10-1 higashisyo@city-mishima.ed.jp	学校	055-975-0110 055-976-4194
				教諭 ※	原 美聡	三島市立錦田中学校	411-0801	三島市谷田 1 5 0 5 nishikidachu@city-mishima.ed.jp	学校	055-975-1093 055-976-4341
		5	駿東	校長 ※	小林浩之	長泉町立北中学校	411-0933	駿東郡長泉町納米里333-3 kita-chu-2@po4.across.or.jp	学校	055-987-1820 055-987-1821
				教諭 ※	横山由香	長泉町立北中学校	411-0933	駿東郡長泉町納米里333-3 kita-chu-2@po4.across.or.jp	学校	055-987-1820 055-987-1821
		6	沼津	校長 ※	大川美紀	沼津市立門池中学校	410-0012	沼津市岡一色657-1 t362794@nmz.ed.jp	個人	055-923-3900 055-923-3963
				教諭 ※	北川 諒	沼津市立第一中学校	410-0806	沼津市丸子町692-1 t541902@nmz.ed.jp	個人	055-962-1551 055-962-1541
		7	富士	校長	金子哲也	富士宮市立北山中学校	418-0012	富士宮市北山1092 ih-kt-p001@fujinomiya-shizuoka.ed.jp	個人	0544-58-1026 0544-58-6790
				教諭	稲葉広将	富士市立岳陽中学校	417-0061	富士市伝法 6 3 0 ic-gakuyou@div.city.fuji.shizuoka.jp		0545-71-7955 0545-71-7919
静岡市	中部	8	静岡	校長 ※	黒瀬純孝	静岡市立豊田中学校	422-8027	静岡市駿河区豊田一丁目 3 番 1 号 toyoda-jp@shizuoka.ednet.jp	学校	054-285-8201 054-288-7635
教諭				石丸友梨香	静岡市立南中学校	422-8035	静岡市駿河区宮竹2丁目11-1 minami-jo@shizuoka.ednet.jp	学校	(054) 237-4900 (054) 237-2519	
9		志太	校長	飯塚稔文	藤枝市立高洲中学校	426-0047	藤枝市与左衛門33番地の 1 ts.iizuka@fuijieda.ed.jp	個人	054-635-0781 054-635-0797	
			教諭	石神美希	藤枝市立高洲中学校	426-0047	藤枝市与左衛門33-1 takasu-jh@fuijieda-ed.jp	学校	054-635-0781 054-635-0797	
10		榛原	校長 ※	横井嘉治	吉田町立吉田中学校	421-0301	榛原郡吉田町住吉230 yoshicyu-kocho@ck.tnc.ne.jp	学校	0548-32-0200 0548-32-0790	
			教諭 ※	杉本実季	吉田町立吉田中学校	421-0301	榛原郡吉田町住吉230 yoshicyu@ck.tnc.ne.jp	学校	0548-32-0200 0548-32-0790	
11		小笠	校長	染葉美智子	掛川市立城北小学校	436-0061	掛川市水垂178 office@johoku.ed.kakegawa-net.jp	学校	0537-22-3357 0537-22-3361	
			教諭 ※	前川恭佑	菊川市立菊川東中学校	439-0018	菊川市本所670 kiku-higashi@kzc.biglobe.ne.jp	学校	0537-35-2335 0537-35-2497	
西部		12	磐周	校長 ※	山脇直美	袋井市立三川小学校	437-0004	袋井市友永38番地 mitsukawa-s@orange.ocn.ne.jp	学校	0538-48-6197 0538-48-6199
				教諭 ※	松下孝行	磐田市立豊田中学校	438-0804	磐田市加茂243 toyoda-j@city-iwata.ed.jp	学校	0538-32-4637 0538-32-8392
	13	湖西	校長 ※	木戸脇佳代	湖西市立知波田小学校	431-0403	湖西市大知波1144 chibatae@city.kosai-szo.ed.jp		053-578-0034 053-578-3343	
			教諭 ※	鈴木宏昌	湖西市立新居中学校	431-0301	湖西市新居町中之郷1181 suzuki-h00044@city.kosai-szo.ed.jp	個人	(053) 594-0004 (053) 594-6984	

※…役員兼務地区代表

令和8年度の組織の提出をお願いします

		No.	地域	職名	氏名	所属	メールアドレス	電話番号
								ファックス
静岡県	東部	1	賀茂					
		2	田方					
		3	東豆					
		4	三島					
		5	駿東					
		6	沼津					
		7	富士					
	静岡市	8	静岡					
	中部	9	志太					
		10	榛原					
		11	小笠					
	西部	12	磐周					
		13	湖西					

※…役員兼務地区代表

令和7年2月25日

静教研 英語教育研究部 役員・地域代表者 様

英語教育研究部
事務局 植田 麻衣

令和8年度 静岡県教育研究会英語教育研究部 組織づくりについて（依頼）

新年度の役員・地域代表者名簿を作成いたします。新役員が決定次第、各ご担当で引継ぎを行っていただきますとともに、速やかに下表にてお知らせください（第1回委員研修会依頼文書もお渡しください）。また、引き続き役員を担っていただける方についても、改めてご提出をお願いいたします。

下表①より順に選択・記入してください。

提出締切：4月10日（金）

【入力欄】

選択①	→選択②	→選択③	職名	氏名	勤務校	郵便番号 (半角)	上：学校住所(県名不要) 下：メールアドレス	個人/学校	上：電話番号 下：ファックス

※英数字はすべて半角でご入力ください。

【役職を兼務される方は、こちらも選択してください】

選択①	→選択②	→選択③

3/31まではこちらへ➡

事務局 長 井 浪 貴 斗
(掛川市立桜が丘中学校)
TEL : 0537 - 22 - 6278
Email : office@sakuragaoka.ed.kakegawa-net.jp

【通信欄】

--

4/1からはこちらへ➡

coming soon

静 教 研 英 語 部 第 1 号
令 和 8 年 3 月 3 1 日

関係所属長 様

静岡県教育研究会 会長 北川和彦
同英語教育研究部 部長 佐藤一朗

令和8年度第1回英語教育研究部委員研修会の開催について（通知）

このことについて、下記のとおり開催いたします。ついては、貴職または関係教職員の派遣についてご配慮願います。

記

- 1 日 時 令和8年5月8日(金)
午後1時15分～午後1時50分 役員会（役員）
午後2時00分～午後3時50分 全体研修会（役員及び地区代表者）
午後4時00分～午後4時30分 地区別研修会（同上）
- 2 会 場 男女共同参画センターあざれあ 第3会議室
・静岡市駿河区馬淵1丁目17-1 TEL 054-255-8440
- 3 参加者 令和8年度英語教育研究部役員・地域代表者
- 4 内 容 （1）部長講話
（2）報告及び協議 ・今年度の教育研究活動について
（3）その他
- 5 その他 ・当日欠席の場合は、下記連絡先まで連絡願います。電話・メールどちらでも構いません。

静岡県教育研究会英語教育研究部
事務局 長 井 浪 貴 斗
（掛川市立桜が丘中学校）
TEL : 0537-22-6278
Email: office@sakuragaoka.ed.kakegawa-net.jp